文字を入力する

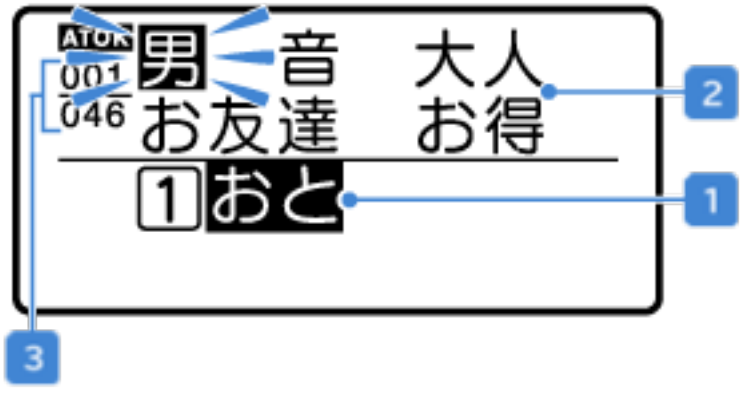
文字入力をはじめる前に

本機は、日本語入力システム「ATOK」を採用しており、文字変換のときに予測入力がはたらきます。
予測入力は、予測候補を次々に表示して、スムーズな入力を支援します。また、連文節変換により、高度な変換精度を実現しています。

ATOK予測入力画面の見かた

本機は、何文字かを入力した時点で、入力しようとする単語を予測し画面上に候補として表示します。

予測候補が表示されている状態で ↑ ↓ を押すと、候補を選択する予測入力画面になります。予測入力画面の見かたと使用できるボタンは以下の通りです。



1 入力文字	入力した文字が反転表示されます。 選択 改行 を押すと、選択している入力候補で確定します。
2 予測入力候補一覧	予測される入力候補を表示します。反転表示の候補は、現在選択されている候補です。
3 予測候補番号/予測候補数	選択されている予測候補の順番と予測候補の総数です。

ATOK予測入力画面で使用するボタン

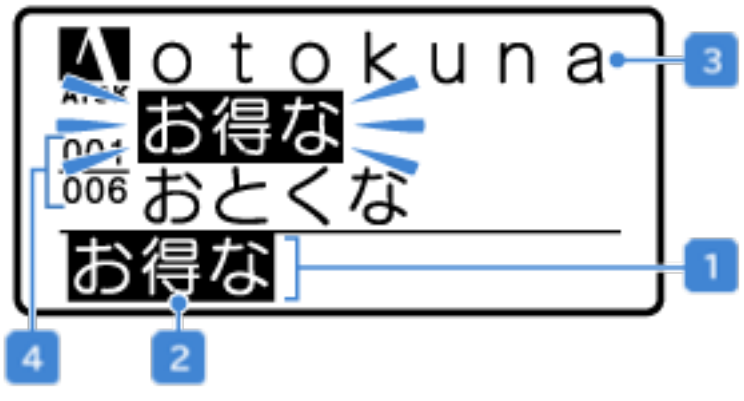
ボタン名	機能
↑ ↓	予測入力候補の選択、および次の予測入力候補の選択
← →	次の予測入力候補の選択
シフト + ↑ 、シフト + ←	最初の入力候補の選択
シフト + ↓ 、シフト + →	最後の入力候補の選択
選択 改行	入力候補の確定
変換 スペース	変換画面への移行
あ・ア・A	ひらがな、カタカナ、英字(ローマ字入力の場合のみ)への変換
削除 取消	予測入力画面を終了し、テキスト画面に戻る テキスト画面では文字を削除する
文字ボタン	予測入力画面を終了し、テキスト画面で文字を入力する

← → は、予測入力画面になる前のテキスト画面では、カーソルの移動動作になります。

シフト + [ ] となっている表記は、シフト を押しながらそのボタンを押す操作です。

ATOK変換画面の見かた

本機は、文字を入力した状態で 変換 スペース を押すと、変換候補を選択する変換画面になります。変換画面の見かたと使用できるボタンは以下の通りです。



1 仮確定文字	変換 スペース を押したとき、変換対象となる入力部分が仮確定文字として表示されます。
2 変換対象	仮確定文字中、反転表示されている部分が現在の変換対象です。 ↓ を押すと確定します。
3 変換候補一覧	変換対象の変換候補を表示します。反転表示の候補は、現在選択されている候補です。
4 変換候補番号/変換候補数	選択されている変換候補の順番と仮確定文字の変換候補数です。

文字の変換中に使用するボタン

ボタン名	機能
変換 スペース	変換候補の表示、および次の変換候補の選択
↑	前の変換候補の選択
シフト + ↑	変換候補番号001の候補の選択
↓	変換対象を確定し、次の文節を変換対象とする
←	変換対象の文節長さを短くする
→	変換対象の文節長さを長くする
シフト + ←	左の文節を変換対象とする（確定されていない場合のみ）
シフト + →	右の文節を変換対象とする（確定されていない場合のみ）
あ・ア・A、 シフト + あ・ア・A	ひらがな、カタカナ、英字（ローマ字入力の場合のみ）への変換
選択 改行	仮確定文字を表示されている状態で確定し、テキスト画面へ戻る
削除 取消	確定されていない文節を「読み」にし、テキスト画面へ戻る
復活	直前に確定した文節を「読み」に戻す
文字ボタン	仮確定文字を表示されている状態で確定し、テキスト画面に文字を入力する

シフト + [ ] となっている表記は、シフト を押しながらそのボタンを押す操作です。

MEMO

・変換候補には、漢字など通常の日本語のほかに、カタカナ語を正しいスペルに変換する「カタカナ語英語」や「記号」「絵文字」も含まれます。
・本機には、変換で簡単に呼び出せるように、業務向け用途で活用できる補助辞書の語彙があらかじめ登録されています。

入力状態を切り換える

文字入力をする前に、入力状態を確認してください。

入力状態の切り換え

入力切換 を押すたびに「かなめくり入力」→「ABC入力」→「ローマ字入力」の順で文字入力状態が切り換わります。

入力状態はインジケーターで確認できます。

（初期設定値はローマ字に設定されています。）

参照 「テキスト画面の見かた」

文字入力のしかた

■ローマ字入力

文字ボタンの A 、B 、C でローマ字読みを入力します。

参照 「ローマ字変換表」

■かなめくり入力

文字ボタンの Q あ 、W か 、E さ でかなを入力します。

1つの文字ボタンには、複数の文字が割り当てられています。文字ボタンを繰り返し押して、目的の文字を表示させます。

例：

文字ボタン ＼ 押す回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	……
R た	た	ち	つ	て	と	っ	た	……

・目的の文字を通り過ぎたときは シフト を押しながら文字ボタンを押すことで前の文字に戻すことができます（リバース機能）。

・「た」と「て」など、同じボタンに割り当てられた文字を連続して入力する場合は、1文字目を入力したあとに、→ または 選択 改行 を押してカーソルを移動します。

■ABC入力

文字ボタンを押す、または シフト を押しながら文字ボタンを押すことで直接入力します。

参照 「英字を入力する」

MEMO

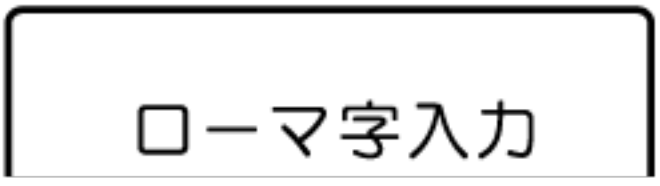
・各文字ボタンに割り当てられている文字は、下記ページを参照してください。

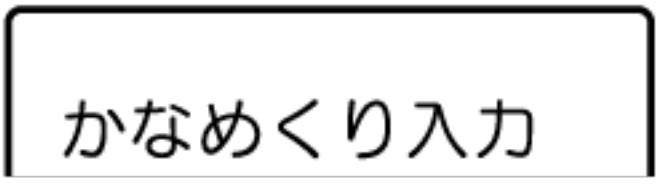
参照 「入力文字一覧表」

文字を入力する(入力例:セット)

ひらがなは文字ボタンで入力し、漢字やカタカナは、「読み」をひらがなで入力してから変換します。

1 入力切換 を数回押して「ローマ字入力」または「かなめくり入力」を選ぶ





2 「せっと」を入力する

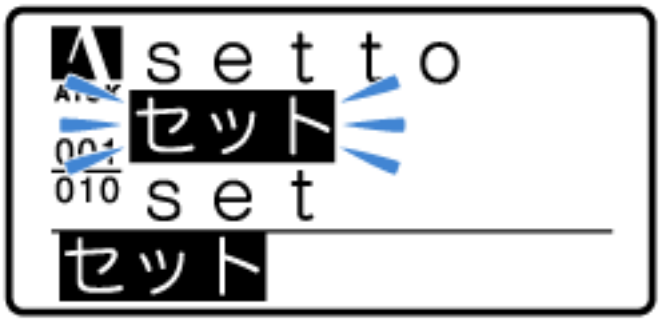


ローマ字入力: S 、E さ 、T な 、T な 、O ら

かなめくり: E さ ×4回、R た ×6回、➔ (または 選択 改行)×1回(＝カーソル移動)、R た ×5回

仮確定文字(反転表示)で入力されます。

3 変換 スペース を押す



変換対象の1番目の候補が表示されます。

さらに 変換 スペース を押すと、変換候補一覧が表示され、次の候補が選択されます。

4 「セット」になっている状態で 選択 改行 を押す



「セット」が確定します。

行頭マークが 1 から 1 に変わります。

MEMO

・文字を間違えたときは、削除 取消 で文字を消して、正しい文字を入力しなおしてください。
・一度選択した語句は、次回から優先して表示されます（学習機能）。
・「読み」を入力した直後に 選択 改行 を押すと、ひらがなのまま確定します。
・「かなめくり入力」のとき、「っ」「と」のように、同じボタンに割り当てられている文字を続けて入力するときは → または 選択 改行 を押して前の文字を反転表示にしてください。
・入力した直後に あ・ア・A を押すと、「ローマ字入力」時は押すたびに「ひらがな→カタカナ→英字」の順に、「かなめくり入力」時は「ひらがな→カタカナ」の順に変換します。また、シフト を押しながら あ・ア・A を押すと、「ローマ字入力」時は「英字→ひらがな→カタカナ」の順に、「かなめくり入力」時は「カタカナ→ひらがな」の順に変換します。変換後は、選択 改行 を押して確定します。
・2文節目以降の語句を変換しなおす操作や変換対象の文節の長さを変える操作については、下記ページを参照してください。
参照 「予測入力を使う（入力例：大きな）」－「長い文章を変換する」、「変換する「読み」の長さを変える」
・ローマ字入力のスペルは、ローマ字変換表を参考にしてください。
参照 「ローマ字変換表」
・一度に入力できる「読み」は30文字までです。ただし、ディスプレイに表示されるのは、最大8文字です。
・数字ボタンに表記された記号「！」「￥」などは、シフト を押しながら該当する文字ボタンを押して入力します。
・2行目を作成するときは、選択 改行 を押して改行します。
参照 「行を増やす（改行）」

参考：濁音や拗音の入力について

濁音や拗音は、入力方法によって異なります。

ローマ字入力

濁音(「ざ」「ば」) 半濁音(「ぱ」「ぺ」)	拗音(「ゃ」「ゅ」「ょ」) 促音(「っ」)
濁音、半濁音用のスペルで入力します。 参照 「ローマ字変換表」	次のいずれかの方法で入力します。 ・「きゃ」(K 、 Y は 、 A)などのように前の文字と組み合わせたスペルで入力する。 参照 「ローマ字変換表」 ・促音「っ」は、直後の文字の子音を2つ重ねる。 例: S 、 A 、 K 、 K 、 A …「さっか」 ・ L ゛゜ を押してから通常の文字ボタンを押す。 例: L ゛゜ 、 T な 、 U ま …「っ」、 L ゛゜ 、 U ま …「う」

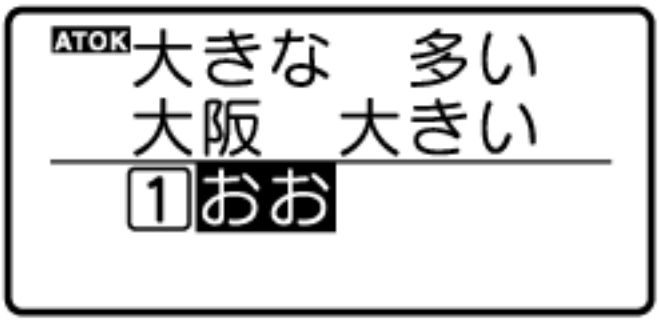
かなめくり入力

濁音(「ざ」「ば」) 半濁音(「ぱ」「ぺ」)	拗音(「ゃ」「ゅ」「ょ」) 促音(「っ」)
清音のあとに、「゛」や「゜」を入力します(L ゛゜)。 直前の文字が、濁音・半濁音の両方がつく文字の場合(は行)には、濁音・半濁音が入力できます。 直前の文字が、濁音のみがつく文字の場合(か行、さ行、た行)には、濁音のみ入力できます。	該当する文字ボタンを数回押します。 例: R た ×6回…「っ」、 I や ×4回…「ゃ」

予測入力を使う(入力例:大きな)

1 入力切換 を数回押して「ローマ字入力」または「かなめくり入力」を選ぶ

2 「おお」を入力する

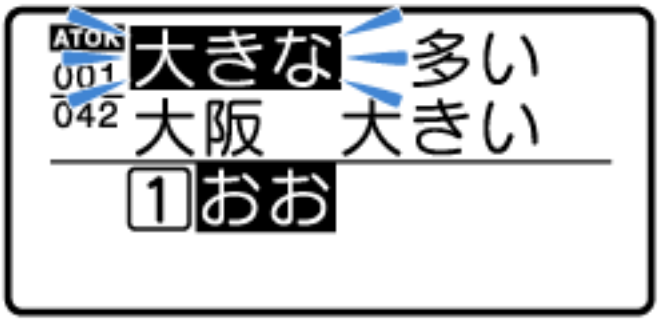


ローマ字入力: O(ら) 、O(ら)

かなめくり入力: Q(あ) ×5回、→ (または 選択改行)×1回(＝カーソル移動)、Q(あ) ×5回

仮確定文字(反転表示)で入力され、予測入力の候補が上半分に表示されます。

3 ↑ ↓ を押す



予測入力画面になり、1番目の候補が選択されます。

さらに ↑ ↓ を押すと次の候補を選択します。

MEMO

・シフト ＋ プレビュー で予測入力候補表示を一時停止し、みえ^{2}表示に切り換えます。続けてテキスト入力または文字の削除をすると、予測入力候補表示を再開します。

4 「大きな」が選択されている状態で 選択 改行 を押す



「大きな」が確定します。

MEMO

・一度選択した予測入力候補は、次回から優先して表示されます（学習機能）。予測入力の学習内容は「学習初期化」で初期化できます。
参照 「初期化する」－「学習内容を初期化する」
・予測候補のないテキストの場合は候補が表示されません。

参考：長い文章を変換する

入力した文章が長く、ATOK変換画面で表示されている仮確定文字の状態では正しくない場合は、↓ を押して文節ごとに変換します。
例：「あすははれますか」を「明日は晴れますか」に変換する

1 「あすははれますか」を入力して 変換 スペース を押す

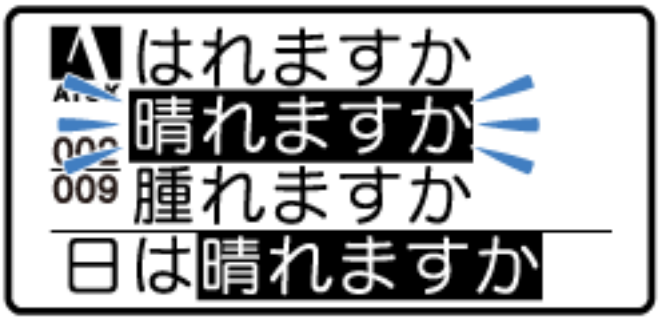
ATOK変換画面になります。

2 1文節目が正しく変換されている状態で ↓ を押す



1文節目が確定し、次に2文節目が変換対象になります。

3 変換 スペース を押す



2文節目の変換候補が表示されます。

4 正しく変換されている状態で ↓ を押す

2文節目が確定します。

さらに長い文章の場合も、同様の操作を繰り返すことにより、文節ごとに変換することができます。

MEMO

・ATOK変換画面で文字ボタンを押すと、仮確定文字は表示されている状態で確定し、続けて次の文字が入力されます。
・一度に入力できる「読み」は30文字までです。ただし、ディスプレイに表示されるのは、最大8文字です。

参考：変換する「読み」の長さを変える

変換する「読み」の長さが違い、目的の漢字に変換できない場合は ← → を押して変換対象となる「読み」の長さを変えます。

例：「きのうえをかった」を「昨日絵を買った」に変換する

1 「きのうえをかった」を入力して 変換 スペース を押す

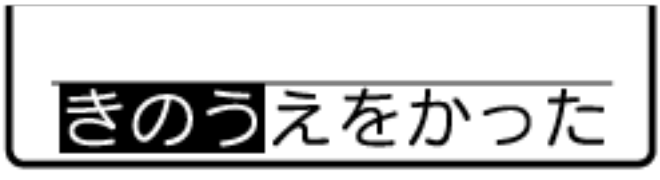
ATOK変換画面になります。

2 変換対象の長さが適当でないときは ← → を押す



変換対象（反転表示部分）は ← で短く → で長くなります。

3 ← → を押して「きのう」を文節にする



4 変換 スペース を押す



長さを変えた1文節目の変換候補が表示されます。

正しく変換されたら ↓ で確定し、2文節目以降を変換します。

MEMO

・ATOK変換画面で文字ボタンを押すと、仮確定文字は表示されている状態で確定し、続けて次の文字が入力されます。
・一度に入力できる「読み」は30文字までです。ただし、ディスプレイに表示されるのは、最大8文字です。

英字を入力する

英字は、「ローマ字入力」または「ABC入力」で、文字ボタンを押して入力します。小文字の入力には シフト を使います。
例：Box

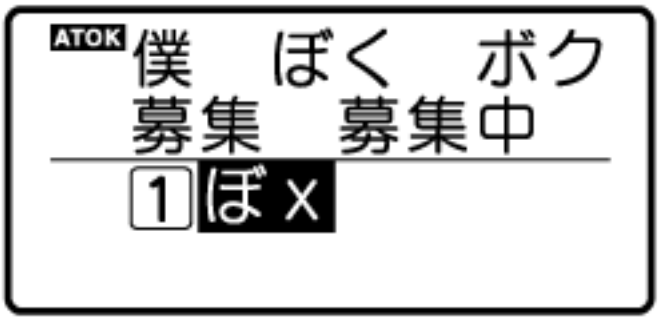
MEMO

・文字ボタンに表記された英字を直接入力する場合は「ローマ字入力」または「ABC入力」にしてください。「かなめくり入力」では入力できません。
・「ローマ字入力」で文字を入力した直後に あ・ア・A を押すと、押すたびに、「ひらがな→カタカナ→英字」の順に変換します。また、 シフト を押しながら あ・ア・A を押すと「英字→ひらがな→カタカナ」の順に変換します。
・英語の「カタカナ読み」を入力して 変換 スペース を押しても英字にできます（カタカナ語英語変換）。
例えば、「ローマ字入力」または「かなめくり入力」で「ぼっくす」と入力して 変換 スペース を押すと、正しいスペルの「box」が変換候補に表示されます。
・変換対象の文節の長さを変える操作については、下記ページを参照してください。
参照 「予測入力を使う（入力例：大きな）」－「変換する「読み」の長さを変える」

ローマ字入力をする

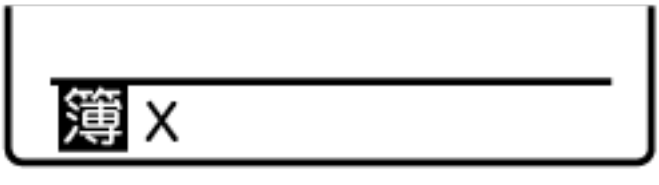
綴りを入力してから変換します。

1 「Box」を入力する



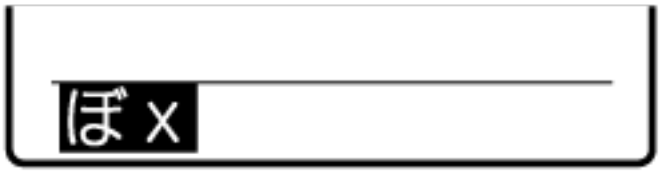
入力：B 、シフト ＋ ら 、変換 スペース ＋ X
「ぼx」と表示されます。

2 変換 スペース を押す



ATOK変換画面になります。

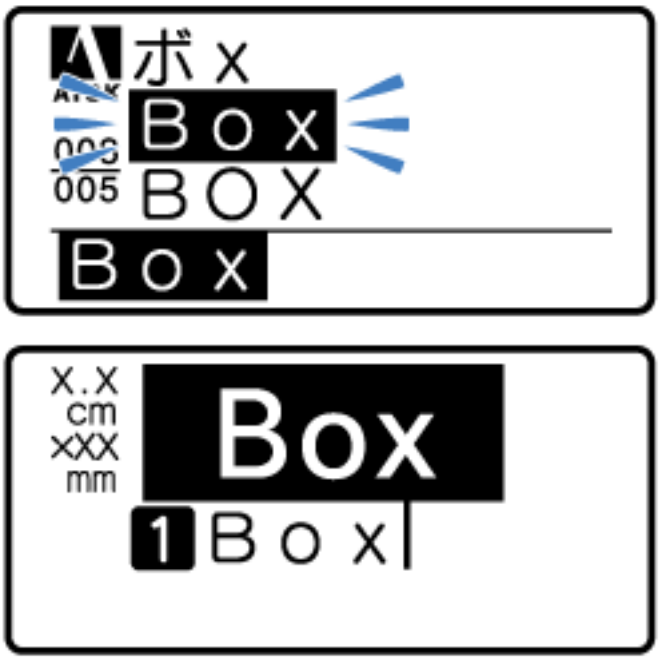
3 変換する文節の長さが適当でないときは → を押す



「ぼx」が変換対象（反転表示）になります。

4 変換 スペース を押して「Box」を選択する

5 ↓ を押す



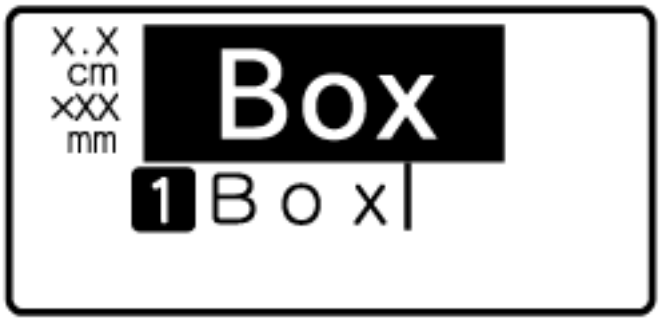
「Box」が確定します。

ABC入力をする

英字を入力するときに「ABC入力」にすると、文字ボタンを押して、直接英字を入力できます。

1 入力切換 を数回押して「ABC入力」を選ぶ

2 「Box」を入力する



入力: B 、シフト + ○ら 、シフト + X

入力(小文字ロックをしている場合): シフト + B 、○ら 、X

「Box」が表示されます。

MEMO

・小文字ロック

「ABC入力」時に、シフト を押しながら 入力切換 を押すと、小文字入力状態に切り換わり、シフト を押していないときに小文字入力インジケーターが点灯します。もとに戻す場合には、もう一度 シフト を押しながら 入力切換 を押します。

注意

・半角英数字はQRコード作成時のみ入力できます。

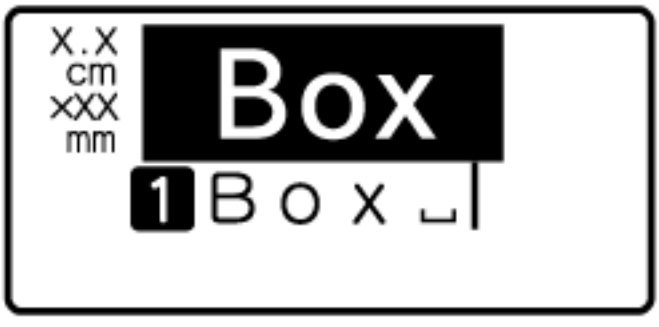
参照 ☞「QRコードを入力する」

スペースを入力する

スペースを入力すると、テキスト画面上に「␣」(半角スペース)が表示され、印刷すると約半文字分の空白になります。

1 仮確定文字がないことを確認する

2 変換 スペース を押す



半角スペースが入力されます。

MEMO

・仮確定文字があるときに 変換 スペース を押すと、漢字に変換されます。
・スペースには、半角スペース(␣)のほかに、1文字分の全角スペース(␣)があり、記号メニューで入力します。
・「ローマ字入力」「かなめくり入力」「ABC入力」のいずれでも半角スペースが入力できます。

記号(絵文字)を入力する

操作パネルに表記されていない記号や絵文字は、記号メニューや絵文字メニューから指定します。

1 記号 または シフト ＋ 記号 (＝絵文字)を押す

「記号」メニューまたは「絵文字」メニューが表示されます。

2 ↑ ↓ で分類を選ぶ



ここでは、例として「絵文字」の「趣味」を選びます。

3 選択 改行 を押す

「趣味」の絵文字が表示されます。

4 ← → で「 」を選ぶ



5 選択 改行 を押す



「 」が入力されます。

MEMO

・仮確定文字や点滅文字があるときは、記号や絵文字を入力することはできません。
・入力できる記号や絵文字は、付録を参考にしてください。

参照 「記号一覧表」

参照 「絵文字一覧表」

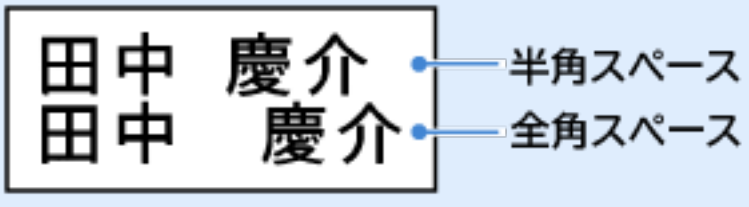
・操作を途中でやめるときは、削除 取消 または 記号 を押すか、ホーム を押してテキスト画面に戻ります。
・一度選択した記号や絵文字は、次回から優先して表示されます（学習機能）。
・記号メニューの「編集」内の記号はそれぞれ以下のはたらきをします。

罫（罫入力記号）：縦罫線を入力します。

␣（全角スペース）：全角スペースを入力します。

・一部の記号や絵文字は、記号名称の「読み」を入力して 変換 スペース を押すと、記号や絵文字が変換候補に表示されます（記号変換・絵文字変換）。
・半角スペースは、変換 スペース で入力できます。ただし、「文字間」で「プロポーショナル」が「オフ」に指定されているときは、半角スペースでも約1文字分の空白として印刷されます。

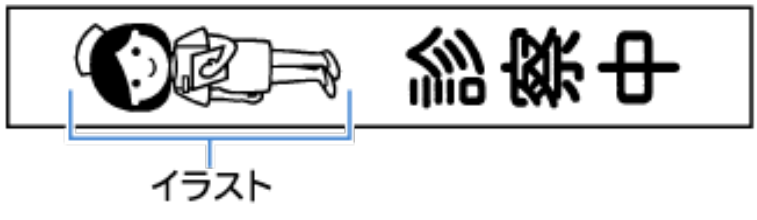
参照 「文字間」



・絵文字メニューの「イラスト」内の絵文字は、通常の記号2文字分の大きなサイズのものです。

参考：イラストを入力する

「絵文字」メニューから「イラスト」を選ぶと、2文字分の大きな絵文字を入力することができます。
改段落でほかの文章を組み合わせたり、つなげて使用することで、表現できるラベルの幅が広がります。



MEMO

・イラストは、絵文字2文字分の大きな絵文字です。イラストは1つのブロックになっており、削除する場合、イラスト全体が削除されます。
コピーする場合も、イラスト全体をコピーします。
・イラストをつなげて使用する場合は、該当箇所の文字間を「密着」に指定してください。

参照 「文字間」

文章を作る

入力した文章に文字を挿入したり、入力した文章を消去するなどの変更ができます。

カーソルボタンの使いかた

画面に表示される縦線「 | 」をカーソルと呼びます。カーソルは文字を挿入、削除する位置を表します。



カーソルの移動にはカーソルボタン ← ↑ ↓ → を使います。
本機のディスプレイには最大8文字×4行で表示されます。これ以上の文字を入力すると、はじめに入力した行や文字は隠れて見えなくなりますが、カーソルを移動すれば確認できます。

カーソルボタン	カーソルの移動方向
←	左方向に1文字移動します。押し続けると高速で移動します。
→	右方向に1文字移動します。押し続けると高速で移動します。
↑	前(上)の行へ移動します。押し続けると高速で移動します。
↓	次(下)の行へ移動します。押し続けると高速で移動します。
シフト + ←	行頭へ移動します。繰り返すと、前の行の行頭、さらに前の行頭……と移動します。
シフト + →	行末へ移動します。繰り返すと、次の行の行末、さらに次の行末……と移動します。
シフト + ↑	段落の先頭へ移動します。繰り返すと、前の段落の先頭へと移動します。
シフト + ↓	段落の終わりへ移動します。繰り返すと、次の段落の終わりへと移動します。

シフト + [ ] となっている表記は、シフト を押しながらそのボタンを押す操作です。

文章を入力する

文字は操作パネルの文字ボタンで入力し、変換 スペース を押して漢字などに変換します。

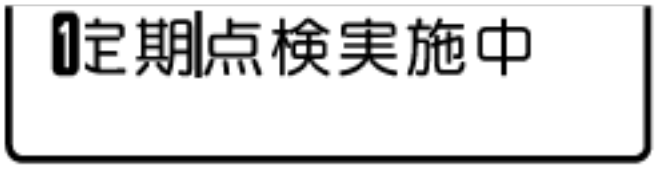
参照 ☞「文字を入力する(入力例:セット)」



文字を削除/挿入する

文字の後ろ(右側)にカーソルを合わせ 削除 を押すと文字が削除されます。
文字を挿入するときは、挿入したいところにカーソルを合わせます。
例:「定期点検実施中」の「定期」を削除し、「特別」を入れて「特別点検実施中」にする

1 ← → で「期」の後ろ(右側)にカーソルを合わせる

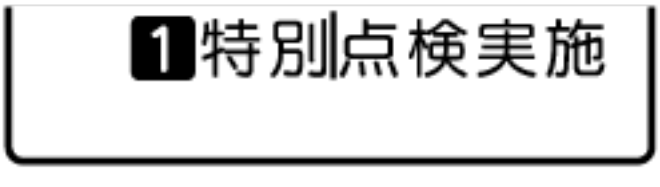


2 削除 を2回押して「定期」を削除する



カーソル位置は行頭になります。

3 「特別」を入力する



注意

・挿入によって文字数が入力可能文字数(約175文字)をオーバーしたときは、文末にフルメモリーマーク(◀)が表示され、文末の文字からオーバーした分だけ自動的に削除されます。

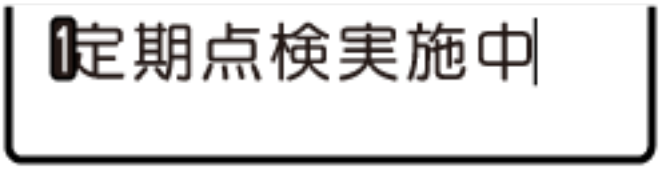
MEMO

・間違って削除した場合は、削除した直後なら 復活 を押すと復活できます。ただし、削除直後に ← ↑ ↓ → 、シフト 、入力切換 以外のボタンを押した場合は、復活できません。

削除した文字をもとに戻す（復活）

削除した文字や文章は、削除した直後なら 復活 で復活できます。
例:「定期点検実施中」の「定期」を削除してから復活する

1 「定期点検実施中」を入力する

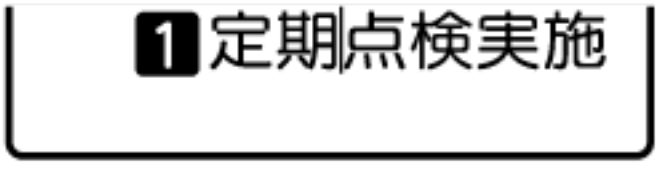


2 ← → で「期」の後ろ（右側）にカーソルを合わせる

3 削除 取消 を2回押して「定期」を削除する



4 復活 を2回押す



削除した文字が復活します。

MEMO

・仮確定の状態で削除した文字は、復活できません。
・削除直後に ← ↑ ↓ → 、シフト 、入力切換 以外のボタンを押した場合は、次に 復活 を押しても復活できません。
・削除 取消 で削除した文字を30文字まで記憶できます。
・全文消去も復活できます。

文字をコピーする

すでに入力した文字をコピーすることができます。
例:「定期点検実施中、特別点検実施中」で2回目の「点検実施中」をコピーで挿入する

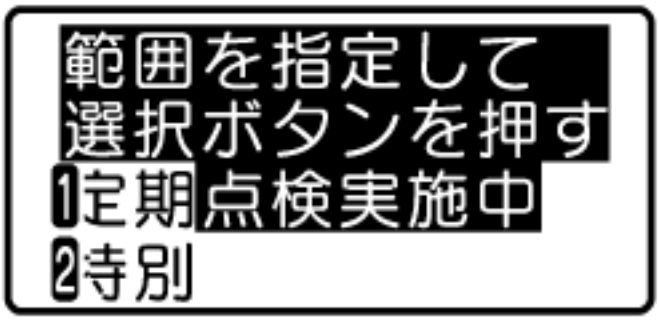
1 1行目に「定期点検実施中」、2行目に「特別」を入力する

2 ← ↑ ↓ → で「点」の前(左側)にカーソルを合わせる



3 コピー を押す
コピー範囲を指定する画面になります。

4 ← → で範囲を指定し、選択/改行 を押す



指定した範囲が反転表示になり、選択/改行 を押すと一時的に記憶されます。
このあとの貼り付け操作で文字を貼り付けます。

MEMO

・一度にコピーできる文字は30文字までです。
・バーコードの数値入力時や、あて名の郵便番号、カスタマバーコード入力時には、コピーや貼り付けはできません。

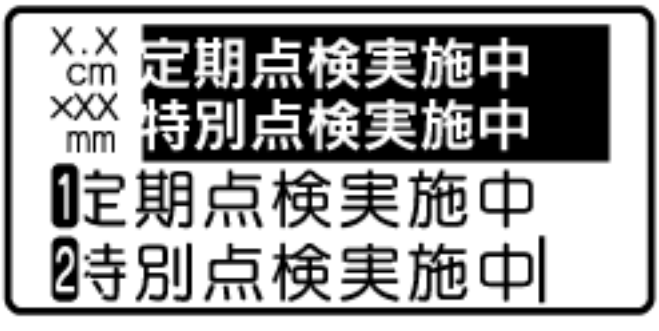
文字を貼り付ける(ペースト)

コピーした文字は、次にコピーするまで何度でも貼り付ける(ペーストする)ことができます。

1 ← ↑ ↓ → で貼り付け先にカーソルを合わせる



2 シフト を押しながら コピー (＝貼付け)を押す



コピーされた文字が挿入されます。

MEMO

・一度にコピーできる文字は30文字までです。
・バーコードの数値入力時や、あて名の郵便番号、カスタマバーコード入力時には、コピーや貼り付けはできません。

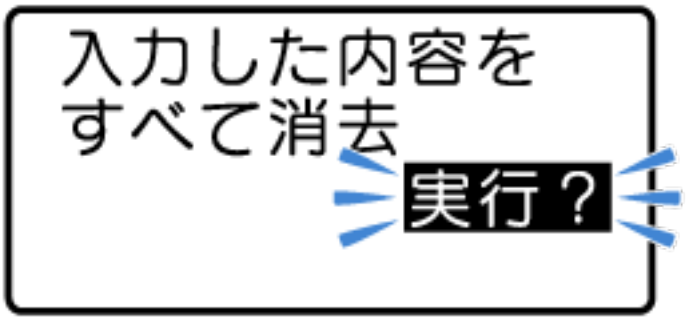
すべての文章を消去する

入力した文章は電源を切っても消去されません。入力した文章をすべて消去したいときは「全文消去」をおこないます。

1 シフト を押しながら 削除取消 （＝全消去）を押す

全文消去画面が表示されます。

2 選択改行 を押す



全文消去され、テキスト画面に戻ります。

注意

・全文消去は、入力したすべての文章が消去されます。文章の書体や外枠など各機能の指定内容も消去されます。消去をおこなう前に、十分に確認してください。

MEMO

・全文消去では、以下の内容は消去されません。

ファイル・あて名・辞書・外字データ、保存値、漢字や記号などの学習内容、文字の入力状態、「みえ^2」の状態

・すべてを購入時の設定に戻したいときは、本機を初期化してください。

参照 ☞「本機を初期化する」

・操作を途中でやめるときは、削除取消 を押し、操作を戻します。

・削除した直後なら 復活 を押すと復活できます。

行を増やす(改行)

2行以上の文章を入力するときは「改行」をおこないます(選択改行 を押します)。

テープ幅と印刷できる行数について

本機では4mmから24mmまでの幅のテープを使うことができます。

テープ幅	4mm	6mm	9mm	12mm	18mm	24mm
印刷可能な行数	1行まで	2行まで	3行まで	4行まで	6行まで	8行まで

注意

・外枠と表組みの種類、テープ幅、行数、文字サイズの組み合わせにより、印刷できない場合があります。
外枠／表組みの種類を変更する、行数を減らす、文字サイズを小さくするなど、設定を変更してから印刷してください。

MEMO

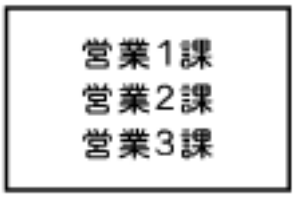
・表示されている文章が何行目にあるかは行頭マークで確認できます。行頭マークには空白行頭マーク 1 2 … ☒、1 2 … ☒と、実質行頭マーク 1 2 … ☒、1 2 … ☒の2種類があります。空白行頭マークは文字が何も入力されていないことを表し、その行は印刷されません。

・☒ ☒ はこれ以上行数を増やせないことを表示しています。☒ の表示があるときに 印刷 を押しても「行数オーバー」が表示されます。☒ のある行を削除してから印刷をおこなってください。

参照 ☞「エラーメッセージが表示されたときは」

新しい行を作る

行の終わりで 選択改行 を押すと、新しい行に入力することができます(改行)。
例:3行の文章を入力する

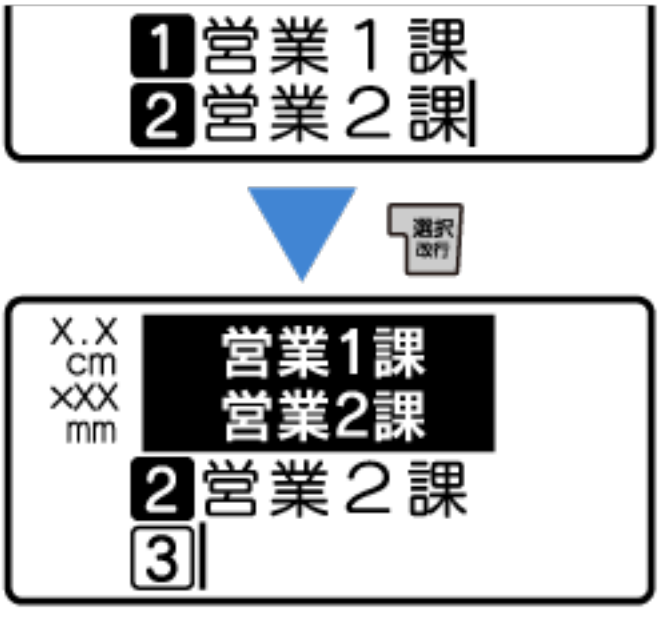


1 「営業1課」を入力し、 選択改行 を押す



2行目に行頭マークが表示されます。

2 「営業2課」を入力し、 選択改行 を押す



3行目に行頭マークが表示されます。3行目を入力します。

MEMO

・仮確定文字があるときは、選択改行 を押しても改行できず、文字が確定します。

文字を次行に移動する

行の途中で改行すると、カーソルより後ろ（右側）の文字は次の行に移ります。
例：「営業1課田中慶介」を2行にする



▼ 途中で改行すると



1 ← → で「課」の後ろ（右側）にカーソルを合わせる



2 選択改行 を押す



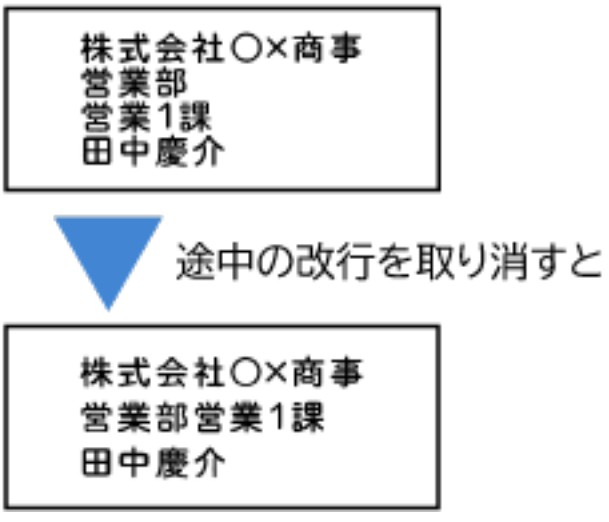
2行目に行頭マークが表示され、「田中慶介」は2行目に移動します。

MEMO

・仮確定文字があるときは、選択改行 を押しても改行できず、文字が確定します。

改行を取り消す

行頭マークにカーソルを合わせて 削除取消 を押すと、その行の文章は前の行に移動し、連結されます。
例：2行目での改行を取り消す



1 3行目の行頭マーク 3 の後ろ(右側)にカーソルを合わせる



2 削除取消 を押す



3行目の「営業1課」が2行目に連結されます。
4行目の「田中慶介」が3行目になります。

MEMO

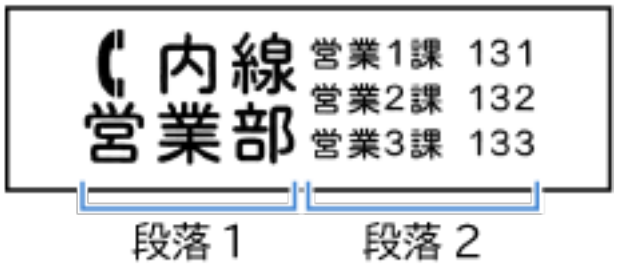
- 最終行の先頭にカーソルを合わせ、削除取消 を押すと4行目の文章が3行目に連結され、4行目は自動的に削除されます。
- 第1段落の1行目の行頭マーク 1 1 は削除できません。

段落を増やす(改段落)

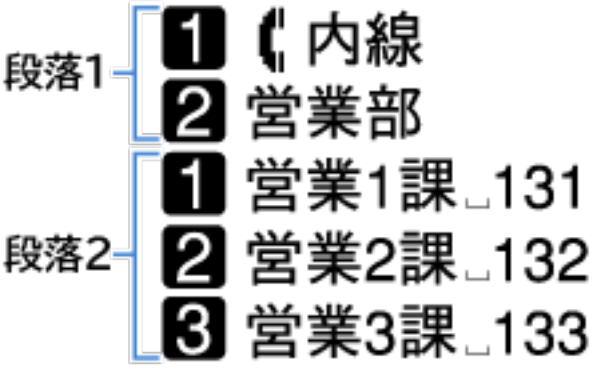
段落について

左下のラベルは2つのブロックからできています。本機ではこのブロックを「段落」と呼びます。段落とはブロックで印刷される「行の集まり(または1行)」のことです。1つのラベルの中に2つの段落を設けることで、いろいろな行数を混在させたり、デザインを段落ごとに変えることができます。
本機では、段落は1つのラベル(文章)の中に10段落まで作ることができます。

段落が2つのラベル
印刷すると各段落は横につながって印刷されますが、画面上では各段落が縦に並んだ形になります。
・ラベルでは

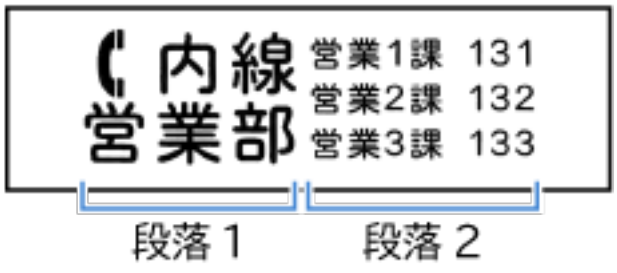


・画面上では



新しい段落を作る

シフト を押しながら 選択改行 (＝改段落)を押すと、新しい段落ができます。
例:2段落の文章を入力する



1 段落1を入力する



1行目「 内線」
2行目「営業部」
と入力します。

2 文末にカーソルを合わせ、 シフト を押しながら 選択改行 (＝改段落)を押す



新しい段落が発生し、 1 が表示されます。

3 段落2を入力する



1行目「営業1課␣131」

2行目「営業2課␣132」

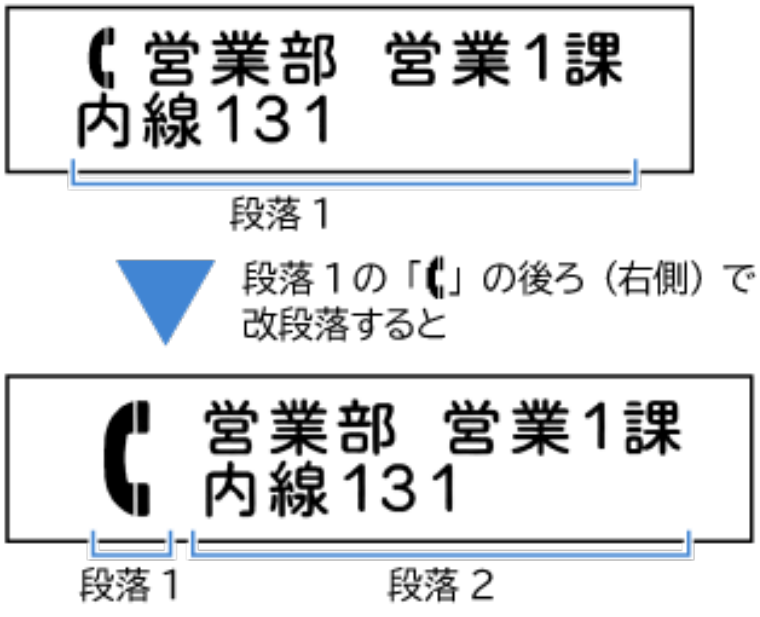
3行目「営業3課␣133」
と入力します。

MEMO

・仮確定文字があるときは、改段落できず、文字が確定します。
・すでに10段落目があるときは、改段落できません。

段落を分割する

段落の途中で改段落すると、カーソル位置より後ろ(右側)の文字は新しい段落に移ります。
例:新しい段落を増やす



1 1行目「 」の後ろ(右側)にカーソルを合わせる



2 シフト を押しながら 選択改行 (＝改段落)を押す



カーソルより後ろ(右側)が改段落され新しい段落になります。

MEMO

・仮確定文字があるときは、シフト を押しながら 選択改行 を押しても改段落はできず、文字が確定します。
・すでに10段落目があるときは、改段落できません。
・段落分割によって新しくできた段落指定値の内容は、もとの段落と同じです。

・もとの段落スタイルの文字サイズに行数が指定されていると、段落分割によって各段落の行数が変わり、指定した行数と一致しなくなります。このとき、文字サイズは「均等」で印刷されます。

参照 ☞「文字サイズ」

読みのわからない漢字を入力する

「読み」のわからない漢字は、漢字検索機能でコードでの入力や部首の読み・画数による検索ができます。入力できるコードの種類は区点コード、JISコード、シフトJISコードです。
本書には区点コード表を掲載しております。部首、JISコード、シフトJISコードをお使いになるときは、市販の辞書もしくはコード表をご参照ください。

参照 ☞「漢字変換表」

漢字検索メニュー一覧

シフト を押しながら あ･ア･A (＝漢字検索)を押すと以下のメニューが表示されます(は購入時の初期設定値です)。

メニュー	最初の選択肢	次の選択肢	次の選択肢
漢字検索			
コード入力 ▶	コード入力 ▶	漢字検索	
コードを入力して漢字を呼び出します。	コード		
部首読み ▶	部首読み ▶	部首選択 ▶	漢字検索
部首の読みで漢字を検索します。	読み		
部首画数 ▶	部首画数 ▶	部首選択 ▶	漢字検索
部首の画数で漢字を検索します。	画数		

コードで入力する

「読み」のわからない漢字を、コードで入力できます。
入力できるコードの種類は区点コード、JISコード、シフトJISコードです。
例:「お休み處」と入力する

MEMO

・本書には区点コード表を掲載しております。JISコード、シフトJISコードをお使いになるときは、市販の辞書などを参照してください。

参照 ☞「漢字変換表」

1 仮確定文字がないことを確認する



2 入力したい漢字「處」のコードを調べる

コードの種類は区点コード、JISコード、シフトJISコードのいずれでもかまいません。
處…4961(区点コード)
参照 ☞「漢字変換表」

3 シフト を押しながら あ･ア･A (＝漢字検索)を押す

「漢字検索」メニューが表示されます。

4 「コード入力」を選び、 選択 改行 を押す



5 コードを入力する



4 、9 、6 、1 を押します。

最後の数字を押すと、コードに対応した漢字の候補が表示されます。

コードを入力すると、目的の文字以外の文字も表示されることがあります。例えば4961は区点コードでは「處」ですが、JISコードでは「普」です。このように異なるコードにも対応した漢字があるときは、候補が複数表示されます。

6 「處」を選び、 選択 改行 を押す



カーソル位置に「處」が入力されます。

MEMO

・仮確定文字があるときは操作できません。

・操作を途中でやめるときは、削除 取消 または 変換 スペース を押し、操作を戻します。

・コードの入力を間違えたときは 削除 取消 を押して入力しなおしてください。

部首による漢字検索

漢字を部首の読みや画数で検索し、入力できます。
例:「榎(えのき)」(部首:木)を入力する

MEMO

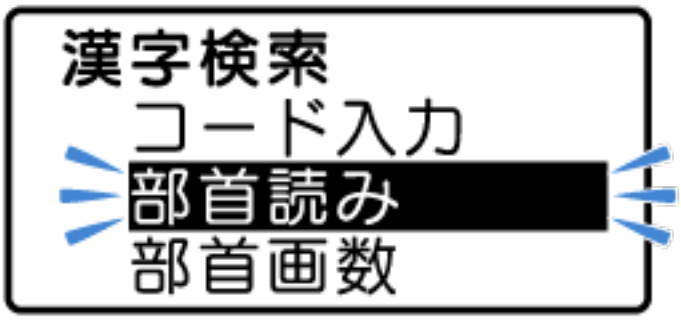
・仮確定文字があるときは操作できません。
・操作を途中でやめるときは、削除 取消 または あ・ア・A を押し、操作を戻します。
・部首読みで入力できる読みは16文字までです。
・部首画数で入力できる数字は1～23です。0もしくは24以上は入力できません。

部首の読みで検索する

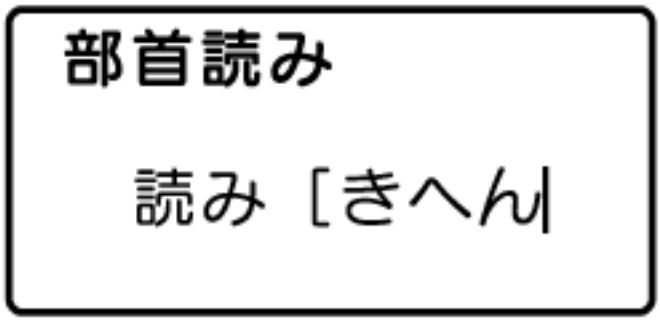
1 シフト を押しながら あ・ア・A (＝漢字検索)を押す

「漢字検索」メニューが表示されます。

2 「部首読み」を選び、 選択 改行 を押す



3 検索する部首の読みをひらがなで入力し、 選択 改行 を2回押す



「きへん」を入力します。

4 ← ↑ ↓ → で部首を選び、 選択 改行 を押す



「木」を選択します。
選択した部首の漢字が表示されます。

5 目的の漢字を選び、 選択 改行 を押す

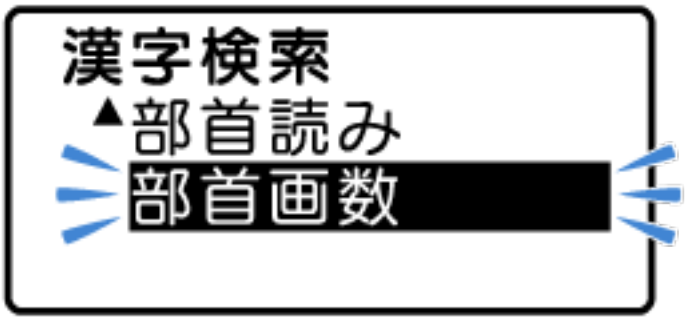


「榎」が入力されます。これで入力完了です。

部首の画数で検索する

1 シフト を押しながら あ･ア･A （＝漢字検索）を押す
「漢字検索」メニューが表示されます。

2 「部首画数」を選び、 選択 改行 を押す

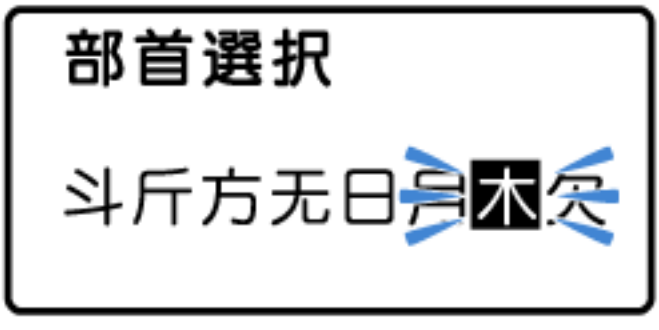


3 検索する部首の画数を入力し、 選択改行 を押す



画数は 4 を押します。

4 ← ↑ ↓ → で部首を選び、 選択改行 を押す



「木」を選択します。
選択した部首の漢字が表示されます。

5 目的の漢字を選び、 選択改行 を押す



「榎」が入力されます。これで入力完了です。

連番を入力する

連番の初期値について

連番の初期値に指定できるのは「0～9」「00～99」またはアルファベットです。初期値0～9を指定した場合には、2桁繰り上がり「あり」「なし」を選択します。
おのおのの印刷ルールは以下の通りです。

・初期値「0 ～ 9」、2 桁繰り上がり「あり」の場合（テキスト表示[2]N）

1、2、3 … 9、10、11 … 99、0、1 …

・初期値「0 ～ 9」、2 桁繰り上がり「なし」の場合（テキスト表示[1]N）

1、2、3 … 9、0、1 …

・初期値「00 ～ 99」の場合（テキスト表示[2]N）

01 … 09、10、11 … 99、00、01 …

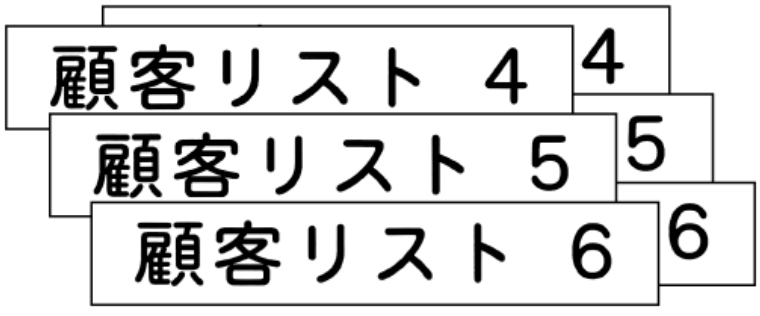
・初期値がアルファベットの場合（テキスト表示[1]N）

A、B、C … Y、Z、A、B …

a、b、c … y、z、a、b …

連番を指定して複数ラベルを作成する

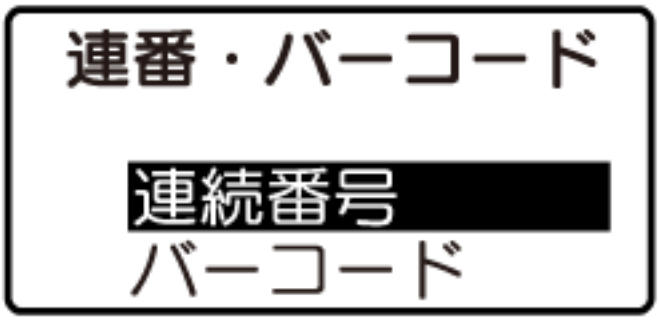
数字または英字の部分だけが異なる複数のラベルを作る場合、連続番号を指定すると、1枚印刷するたびに、自動的に加算して印刷します。
連続番号を印刷するときは、初期値と繰り返し回数(1、2、3、4、5、10回)を指定します。繰り返し回数では同じ数字を何回繰り返すかを指定します。
例:2桁連番で4、5、6…の入ったラベルを2枚ずつ作る



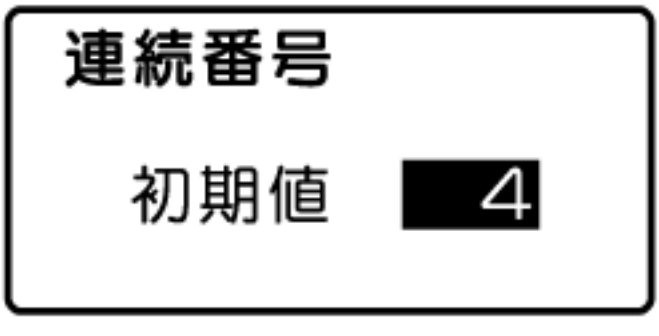
1 連番を入れる位置にカーソルを合わせる

2 シフト を押しながら ファイル (＝連番・バーコード)を押す
「連番・バーコード」メニューが表示されます。

3 「連続番号」を選び、 選択 改行 を押す



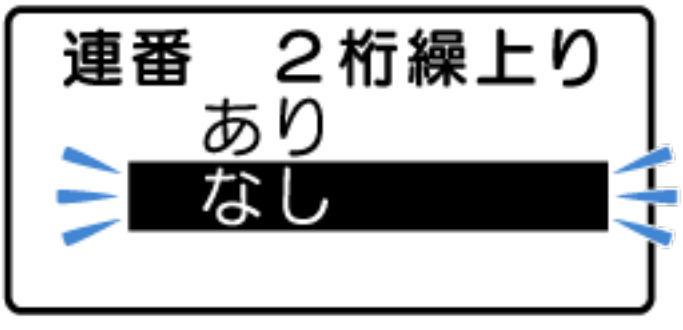
4 初期値に「4」を入力し、 選択 改行 を押す



5 繰り返し回数「2回」を選び、 選択 改行 を押す



6 2桁に繰り上げるかどうかを選び、 選択 改行 を押す





連番（連番マーク 1N ＋数値エリア「4」）が入力されます。

印刷 を押すと、押すたびに連続番号の入ったラベルを印刷できます。

MEMO

・仮確定文字があるときは操作できません。
・操作を途中でやめるときは、削除 取消 または ファイル を押し、操作を戻します。
・1つの文章に入力できる連番は、バーコードと合わせて3個までです。
・連番の初期値や繰り返し回数を変更する場合は、連番の直後（右側）にカーソルを合わせ、シフト を押しながら ファイル （＝連番・バーコード）を押してください。「連番・バーコード」メニューが表示されます。以降の指定方法は、入力手順と同じです。
・連番を削除するときは、連番の直後（右側）にカーソルを合わせ、削除 取消 を押します。
・連番（連番マーク 1N 、 2N ＋数値エリア）にも、通常の文字と同様に、編集機能を指定できます。

バーコード/QRコードを入力する

シフト を押しながら ファイル (＝連番・バーコード)を押すと、バーコードやQRコードが入力できます。

バーコード/QRコードメニュー一覧

■ は購入時の初期設定値です。

メニュー	最初の選択肢	次の選択肢	次の選択肢	次の選択肢
バーコード ▶ バーコードの入ったラベルを作ります。	JAN-8 ▶ JAN-13 ▶	全体の幅 ▶ 小さめ ■ふつう 大きめ		
	QRコード ▶	QRコード用途 ▶ ■一般 URL	セルサイズ ▶ 大 ■中 小	誤り訂正率 ▶ ■7% 15% 25% 30%
	ITF ▶ NW-7 ▶	全体の幅 ▶ 小さめ ■ふつう 大きめ	細・太の比率 ▶ 2.0 ■2.5 3.0	C／D ▶ あり ■なし
	UPC-A ▶ UPC-E ▶	全体の幅 ▶ 小さめ ■ふつう 大きめ		

バーコードを入力する

印刷できるバーコードの規格と指定できる項目

規格	全体の幅 小さめ/ふつう※/大きめ	細・太の比率 2.0/2.5※/3.0	C/D あり/なし※
JAN-13・JAN-8	○	−	−
UPC-A・UPC-E	○	−	−
NW-7・ITF	○	○	○

※は購入時の初期設定値です。
○:指定可能
−:指定不要
全体の幅:バーコード全体の幅
細・太の比率:細いバーと太いバーの太さの比率
C/D:チェックデジットの有無

注意

・バーコードを作成する際は、そのバーコードの規則に従って入力してください。

バーコードを作成する

各種規格に準じたバーコードを入力することができます。
例:「ITF」のバーコード(全体の幅大きめ、細・太の比率3.0、C/Dあり)を入力する



1 シフト を押しながら ファイル (＝連番・バーコード)を押す

「連番・バーコード」メニューが表示されます。

2 「バーコード」を選び、 選択 改行 を押す

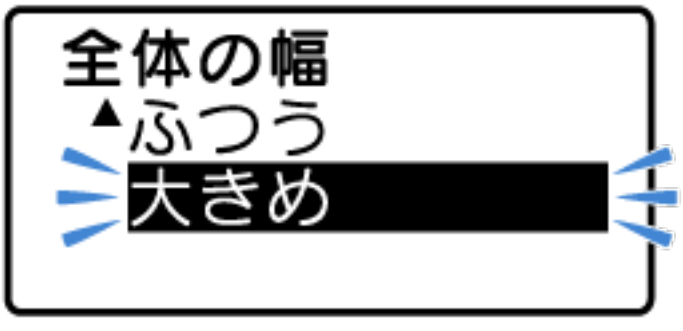


3 「ITF」を選び、 選択 改行 を押す



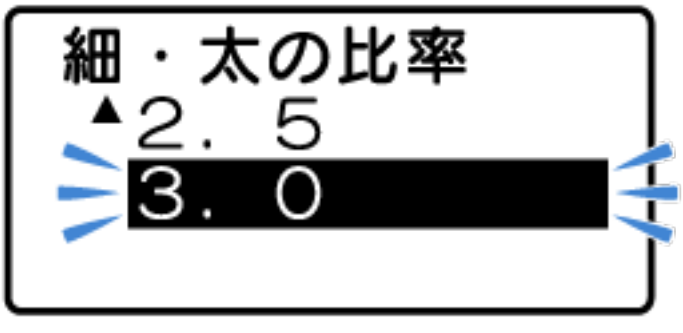
「全体の幅」が表示されます。

4 「大きめ」を選び、 選択 改行 を押す



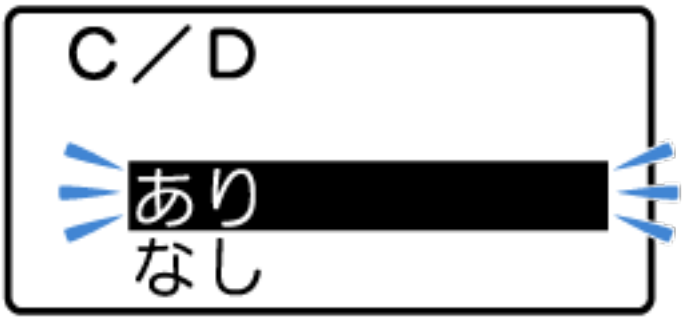
「細・太の比率」が表示されます。

5 「3.0」を選び、 選択 改行 を押す



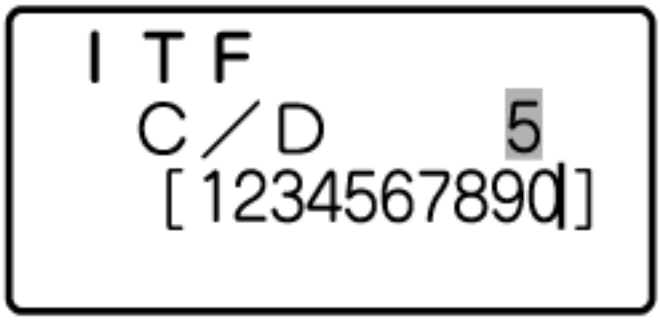
「C/D」が表示されます。

6 「あり」を選び、 選択 改行 を押す



バーコードの数値入力画面になります。

7 数値ボタンでバーコードの数値を入力する



数値が表示されます。右上の網かけ部にはチェックデジットが自動的に発生します。
入力できる桁数は規格によって異なります。

8 選択 改行 を押す



テキスト画面に戻ります。カーソル位置にバーコードマーク(123)が表示されます。

MEMO

・仮確定文字があるときは操作できません。
・操作を途中でやめるときは、削除 取消 または ファイル を押し、操作を戻します。
・1つの文章に入力できるバーコードは、連番と合わせて3個までです。
・バーコードはデータ量が大きいため、ファイルに保存するとたくさんのメモリーを使用します。
・バーコードの数値を変更したり、規格などを変更する場合は、バーコードマーク(123)の直後(右側)にカーソルを合わせ、シフト を押しながら ファイル (＝連番・バーコード)を押してください。「連番・バーコード」メニューが表示されます。以降の指定方法は、入力手順と同じです。
・バーコードの数値を修正するときは、数値入力画面で、前の数字を削除してから新しい数字を入力してください。
・バーコードを削除するときは、バーコードマーク(123)の直後(右側)にカーソルを合わせ、削除 取消 を押します。
・バーコードマークにも、通常の文字と同様に、編集の機能を指定できますが、反映されるものは以下の通りです。
バーコードマークに反映される機能
・地紋、定長、余白
・外枠・表、割付け
・囲・網
・印刷したバーコードは、ご使用になっているお手持ちのバーコードリーダーで読み取りの確認をしてからご使用ください。お手持ちのバーコードリーダーで読み取れない場合は、「全体の幅」や「細・太の比率」を調整し、再度確認してください。
・バーコードの印刷は、バーコードリーダーで読み取りやすい白地に黒文字のテープカートリッジをおすすめします。

・規格によって入力できる桁数が異なります。ITFとNW-7は1～19桁です。
・ITFは偶数桁数のみの規格です。チェックデジットを「あり」に指定して偶数桁を入力した場合、または「なし」に指定して奇数桁を入力した場合は、1桁目にスペアコード（0）が自動的に発生します。
・UPC-Eのチェックデジットは数値入力画面やバーコードの数字には表示されません。
・NW-7は始めと終わりに「A、B、C、D」のいずれかを入力しなければ、作成したラベルをバーコードリーダーで読み取ることができません。
・NW-7は 記号 で記号を入力することができます。入力できる記号は、「$」「+」「-」「.」「/」「:」です。
・バーコードのバーの長さ（線の部分）と数字の長さが一致しないことがありますが、ご使用上問題はありません。

QRコードを入力する

QRコードは2次元コードの一種で、漢字など通常のバーコードよりも多くの情報を入力できます。
また、内容にひらがなや漢字などの日本語情報を入力できます。

QRコードの最大入力可能文字数

QRコードの場合、テープ幅や設定項目により入力可能文字数が異なります。

文字サイズ(pt)	セルサイズ	誤り訂正率(%)	半角数字(1234…)	半角文字(abcd…)	全角(あいうえ…)
26	大	7～30	-	-	-
	中	7～30	-	-	-
	小	7	41	17	10
		15	34	14	8
		25	27	11	7
		30	17	7	4
38	大	7～30	-	-	-
	中	7	41	17	10
		15	34	14	8
		25	27	11	7
		30	17	7	4
	小	7	230	106	65
		15	202	84	52
		25	144	60	37
		30	106	44	27
48	大	7	41	17	10
		15	34	14	8
		25	27	11	7
		30	17	7	4
	中	7	127	53	32
		15	101	42	26
		25	77	32	20
		30	58	24	15
	小	7	-	192	118
		15	230	152	93
		25	230	108	66
		30	202	84	52

QRコードを作成する

例：携帯電話用の電話帳データ（名前、読み、電話番号など）
入力例「MECARD:N:山岸,正樹;SOUND:ヤマギシ,マサキ;TEL:0301234567;;」
（英数、記号は半角文字です。入力に必要な情報はお使いの携帯電話によって異なります。）



1 シフト を押しながら ファイル （＝連番・バーコード）を押す

「連番・バーコード」メニューが表示されます。

2 「バーコード」を選び、 選択 改行 を押す



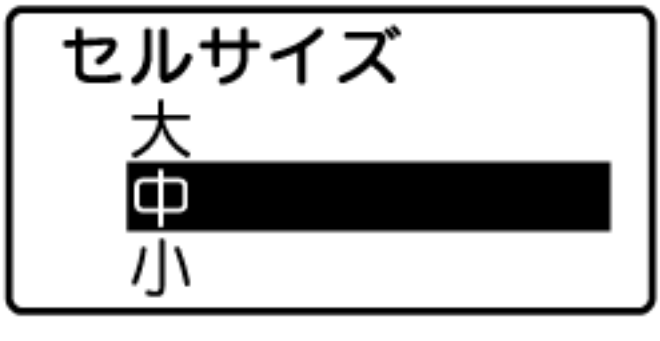
3 「QRコード」を選び、 選択 改行 を押す



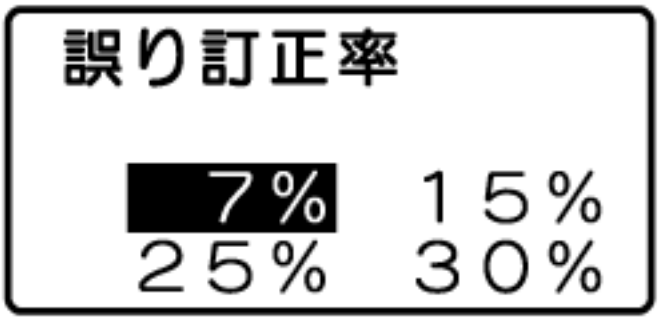
4 用途を選び、 選択 改行 を押す



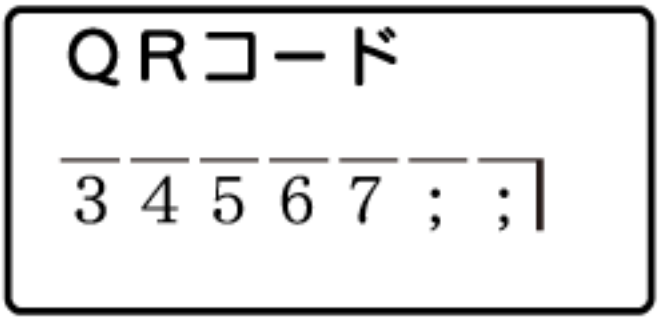
5 セルサイズを選び、 選択 改行 を押す



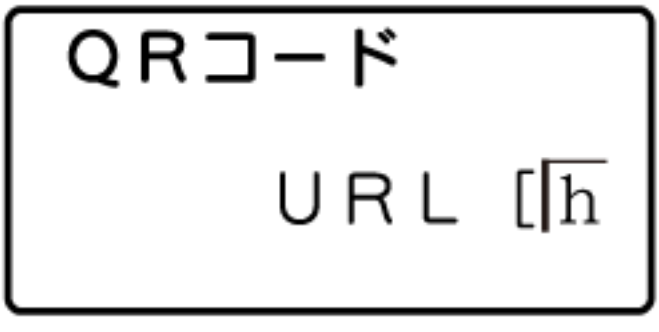
6 誤り訂正率を選び、 選択 改行 を押す



7 1行目の内容を入力する



一般：複数行が入力できます。

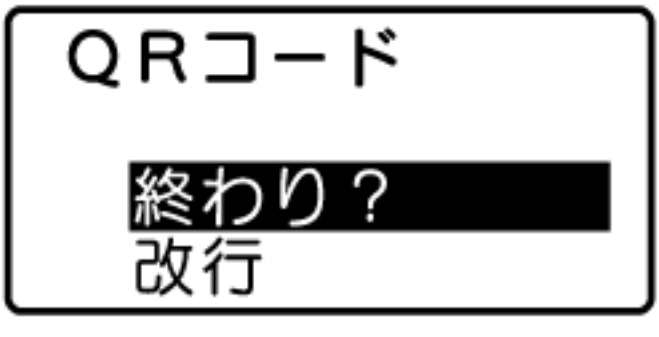


URL：「ABC入力【半角】」で1行のみ入力できます。あらかじめ「http://www.」が入力されています。
文字の上に線が付いて表示される英数字が半角文字です。

8 選択 改行 を押す

「一般」の場合は「改行」または「終わり？」の選択画面が表示されます。
「URL」の場合は入力完了です。

9 次の行を入力する場合は「改行」を、終了する場合は「終わり？」を選び、 選択 改行 を押す



QRコードマーク( )が入力されます。

MEMO

・誤り訂正率とは、QRコードの汚れ、破損で読み取れなくなったデータを復元する能力です。誤り訂正率を上げると復元能力は向上しますが、QRコードのサイズが大きくなることがあります。
・QRコードでは、半角英数字が入力できます。 入力切換 を押して入力状態を「ABC入力【半角】」にしてください。用途が「URL」の場合は「ABC入力【半角】」のみとなります。文字の上に線が付いて表示される英数字が半角文字です。
・仮確定文字があるときは操作できません。
・操作を途中でやめるときは、 削除 取消 または ファイル を押し、操作を戻します。
・QRコードには一部記号も入力できます。入力画面で 記号 を押すことで呼び出せます。
・QRコードが大きい場合、「QRコード大」と表示され、印刷できません。幅の広いテープにする、通常テキストの行数を減らす、セルサイズを小さくする、QRコードの誤り訂正率を低くする、QRコードの文字数を減らす、などの変更をしてください。
・4mm、6mm、9mm幅テープにはQRコードを印刷できません。
・1つの文章に入力できるQRコードは2個までです。また、1つの文章に入力できるバーコード(QRコードを含む)は、連番と合わせて3個までです。
・文字サイズインジケーターの26～48部分が点滅している場合、「QRコード大」が表示され、印刷できません。以下の操作をおこなってください。
 ・QRコードの誤り訂正率を低くする
 ・QRコードの文字数を減らす
・コードの内容やセルサイズ、誤り訂正率を変更する場合は、QRコードマーク( )の直後(右側)にカーソルを合わせ、 シフト を押しながら ファイル (＝連番・バーコード)を押してください。「連番・バーコード」メニューが表示されます。以降の指定方法は作成操作と同じですが、「用途」やバーコードの規格を変更すると、入力されていたコードの内容は失われます。
・QRコードの情報量によっては、印刷履歴に記録されないことがあります。

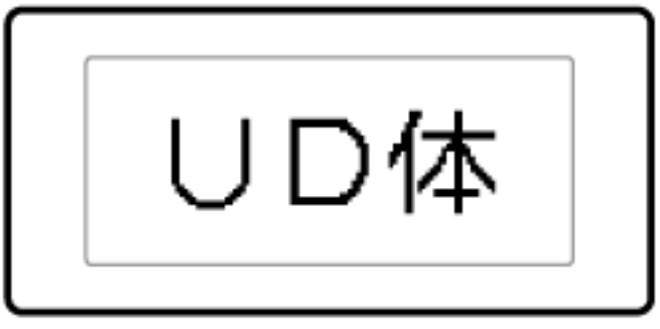
ダイレクトキーで書体を変更する

書体ボタンを使う

書体 を使うと、ラベルの書体を以下の順で切り換えられます。※は購入時の初期設定値です。

明朝体→ゴシック※→UD体→てがき→丸ゴシック→行書体→明朝体・・・

1 目的の書体になるまで 書体 を押す



書体 を押すたびに、選択された書体が表示され、選択肢が切り換わります。

シフト を押しながら 書体 を押すと、選択肢が逆順で切り換わります。

MEMO

・仮確定文字があるときは、書体を変更できません。
・「書体」は編集機能の「書体」でも指定できます。
参照 ☞「書体」
・段落ごとや文字ごとに「書体」を指定する場合や、かな専用書体、英数専用書体を指定する場合、編集機能の「書体」で指定します。
・書体 ボタンは文章全体の書体を変えます。「編集」機能で段落ごとや文字ごとに書体を指定している場合は、「▶（文字モード指定マーク）」前までの書体を変更します。また、漢字、かな、英数書体に別々の書体を指定していても、文章全体が同じ書体になります。
・UD体は株式会社モリサワから提供を受けたユニバーサルデザインフォントである新ゴRです。

ダイレクトキーで文字サイズを変更する

文字サイズボタンを使う

文字サイズ を使うと、文字サイズを一段階ずつ切り換えられます。各行の文字サイズを「おまかせフォーマット」の組み合わせから選択できます。



1 目的の設定になるまで 文字サイズ を押す



文字サイズ を押すたびに選択肢が切り換わります。

カーソルがある行の文字サイズは、ディスプレイのインジケーターで確認できます。

シフト を押しながら 文字サイズ を押すと、選択肢が逆順で切り換わります。

MEMO

・仮確定文字があるときは、「文字サイズ」を変更できません。
・「文字サイズ」は編集機能の「文字サイズ」でも指定できます。
参照 ☞「文字サイズ」
・文字サイズ は、カーソルのある段落に対する指定です。
・初期設定値（均等）に戻すには、編集機能の「文字サイズ」で「均等」を指定します。
・選択肢を切り換えたあとは、プレビューなどでイメージを確認することをおすすめします。

文字サイズとラベルの行数について

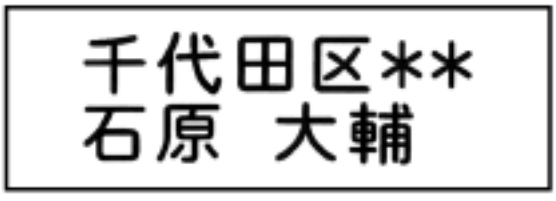
選択できる文字サイズは、ラベルの行数によって次のようになります（文字サイズ を押したときに表示される画面イメージとは若干異なります）。

ラベルの行数	文字サイズ（おまかせフォーマット）の選択肢
1行	特大、 大、 中、 小
2行	大大、 中中、 大細、 大小、 中小、 小中、 小大、 細大
3行	均等大、 均等小、 1大、 1中、 3小、 2大、 2中、 1小、 3大、 3中、 2小
4行	均等、 1大、 2大、 3大、 4大
5-8行	5-8行（サイズ固定）

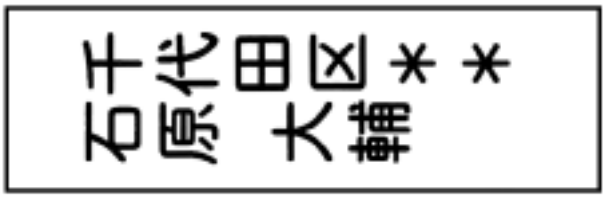
ダイレクトキーでラベルの向きを変更する（縦・横）

縦・横ボタンを使う

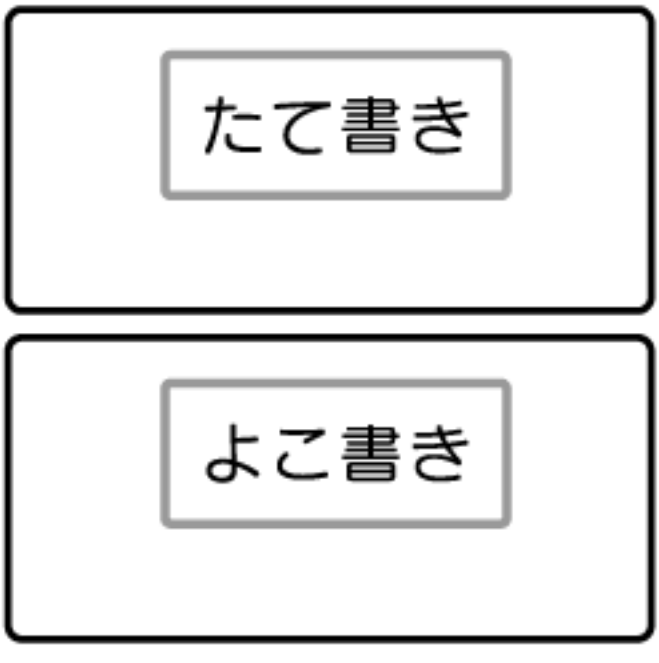
縦・横 を使うと、ラベルの向きを「縦」または「横」に切り換えられます。
・よこ書きラベル



・たて書きラベル



1 縦・横 を押す



「たて書き」と表示された場合は、たて書きになります。
「よこ書き」と表示された場合は、よこ書きになります。
たて書き・よこ書きは、ディスプレイのインジケーターで確認できます。

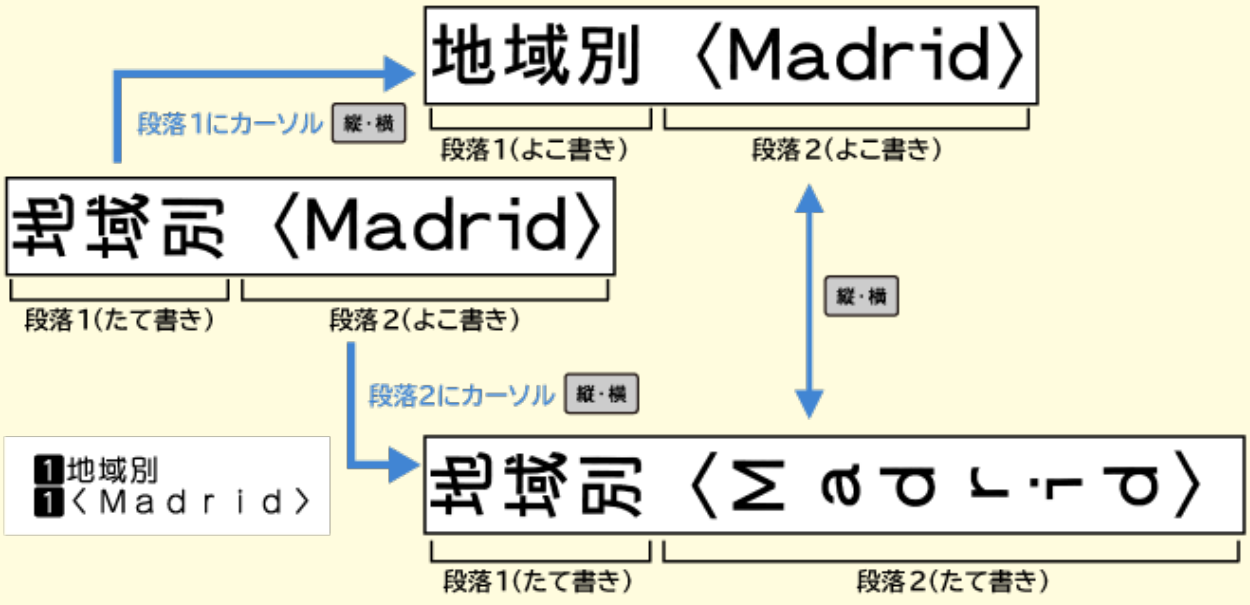
MEMO

・仮確定文字があるときは、「たて書き」「よこ書き」を変更できません。
・編集機能の「縦・横」では文章単位または段落単位で指定できます。
参照 ☞「編集ボタンの機能」－「指定範囲とカーソルの位置について」
・絵文字の「イラスト」は縦書きには対応していません。

参照 「絵文字一覧表」－「イラスト」

注意

・縦・横 は文章全体のラベルの向きを変えます。「たて書き」と「よこ書き」の段落が混在している文章の場合は、カーソルのある段落に対する変更が、文章全体に反映されます。



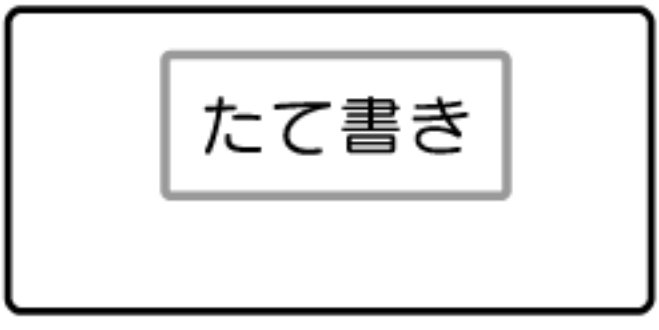
参考:たて書きで2桁の数字を印刷する

「2桁数字」は2桁の数字を1文字として扱うものです。たて書きのラベルで日付や住所の番地などに「2桁数字」を使うと、きれいに揃えて印刷できます。

例:「14回大会記録」を入力する



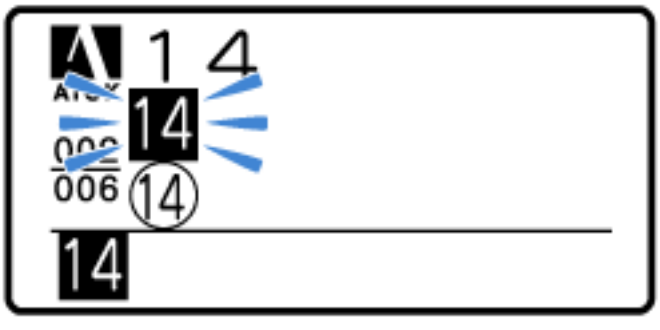
1 縦・横 を押して、「たて書き」を指定する



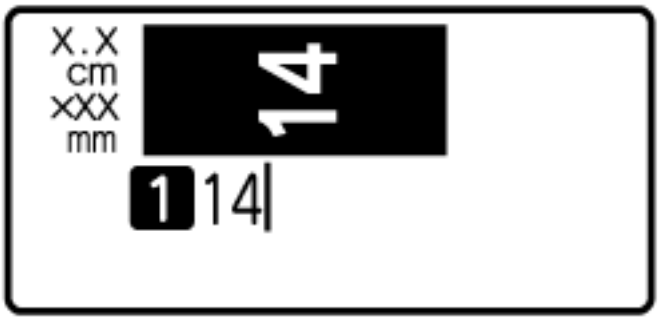
2 [1] [4] と入力して [変換 スペース] を押す



3 [変換 スペース] を押して2桁数字の「14」を選び、 [選択 改行] を押す



4 続けて文章を入力する



MEMO

・操作を途中でやめるときは [削除 取消] を押し、操作を戻します。
・2桁の数字は、[記号] を押して「2桁数」を選んで入力することもできます。
・仮確定文字があるときは、[記号] で2桁数字は入力できません。

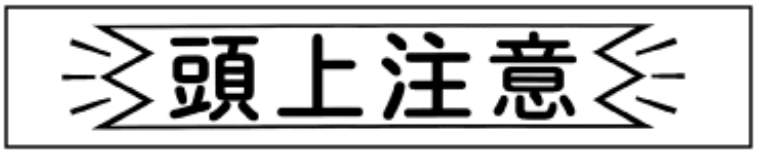
ダイレクトキーで外枠を指定する

外枠ボタンを使う

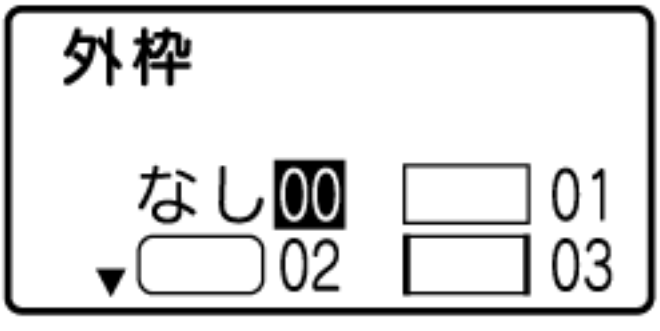
外枠 を使うと、直接外枠メニューに移動します。
文章全体のまわりにつける外枠を手軽に切り換えできます。
・外枠なし



・外枠あり



1 外枠 を押す



外枠メニューが表示されます。

2 切り換えたい外枠を選び、 選択 改行 を押す



注意

・外枠と表組みの種類、テープ幅、行数、文字サイズの組み合わせにより、印刷できない場合があります。
外枠／表組みの種類を変更する、行数を減らす、文字サイズを小さくするなど、設定を変更してから印刷してください。

MEMO

・仮確定文字、点滅文字があるときは、外枠を変更できません。
・表組みの指定はできません。
・編集機能の「外枠」では文章全体または段落単位で指定できます。
参照 「外枠・表」
・編集機能の「外枠」で表組みを指定している場合も、外枠 で選択した外枠に変更されます。
参照 「外枠・表」

ラベルの見栄えをよくする(編集)

文字の書体や大きさを変えて、見栄えの良いラベルにすることができます。

編集ボタンの機能

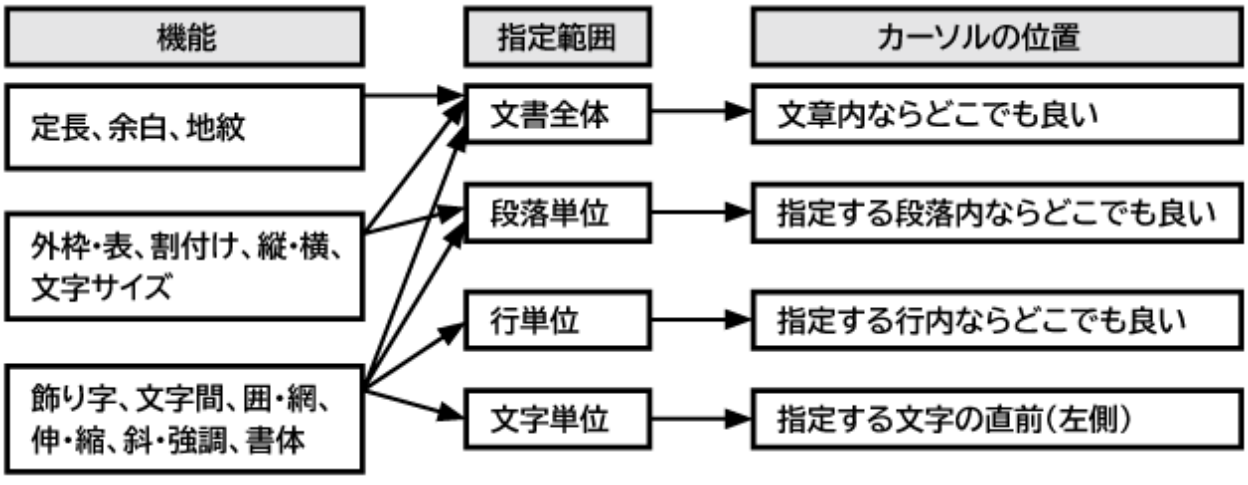
ラベルの見た目を変えるには、編集 を押して表示されるメニューから機能を選択します。機能によって指定可能な範囲(文字単位、文章全体など)が異なります。

機能について

機能	内容	指定範囲
定長	できあがるラベルの長さを指定します。	文章全体
余白	ラベル前後の余白の長さを指定します。	文章全体
外枠・表	飾り枠、表組みを指定します。	文章全体、段落単位
割付け	各行の割り付け位置を指定できます。	文章全体、段落単位
飾り字	白抜き、影文字、白抜影の装飾をします。	文章全体、段落単位、行単位、文字単位
文字間	文字の間隔を変更します。	文章全体、段落単位、行単位、文字単位
囲・網	訂正線、下線、網かけ、囲みの装飾をします。	文章全体、段落単位、行単位、文字単位
伸・縮	文字を伸縮して変形します。	文章全体、段落単位、行単位、文字単位
地紋	背景全体に地紋を入れます。	文章全体
斜・強調	斜体、強調、斜強調の装飾をします。	文章全体、段落単位、行単位、文字単位
縦・横	たて書きや、よこ書きにします。	文章全体、段落単位
文字サイズ	行ごとの文字サイズを指定します。	文章全体、段落単位
書体	漢字、かな、英数字の書体を指定します。	文章全体、段落単位、行単位、文字単位

指定範囲とカーソルの位置について

機能を選択する場合、編集 を押す前に、指定範囲に合わせてカーソルの位置を移動しておく必要があります。このカーソル位置を基準にして、メニュー操作の途中で有効範囲の指定をおこないます。カーソル位置は、指定する機能や範囲によって異なります。次の図を参考にカーソルの位置を確認してください。


機能
指定範囲
カーソルの位置
定長、余白、地紋
外枠・表、割付け、縦・横、文字サイズ
飾り字、文字間、囲・網、伸・縮、斜・強調、書体
文書全体
段落単位
行単位
文字単位
文章内ならどこでも良い
指定する段落内ならどこでも良い
指定する行内ならどこでも良い
指定する文字の直前（左側）

編集を指定する

機能は以下の流れで指定します。

1 カーソルを合わせる

文字に指定するときは、指定する文字の直前(左側)にカーソルを合わせます。
行全体に指定するときはその行に、段落に指定するときはその段落内にカーソルを合わせます。
文章全体に指定するときは、カーソル位置はどこでもかまいません。

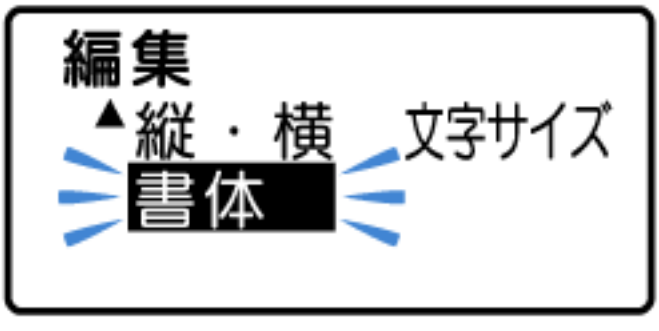
参照 ☞「編集ボタンの機能」－「指定範囲とカーソルの位置について」

2 編集 を押す

注意

・仮確定文字があるときは、機能を指定できません。

3 機能を選ぶ



← ↑ ↓ → で目的の機能を選び、選択 改行 を押します。

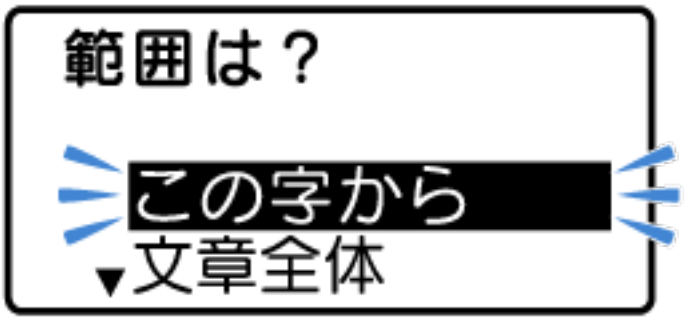
4 各機能の選択肢を指定する



↑ ↓ で目的の選択肢を選び、選択 改行 を押します。

例:「書体」の選択肢

5 指定した機能の有効範囲を決める



指定した機能の有効範囲を指定します。下表を参考に、↑ ↓ で指定する範囲を選び、選択 改行 を押します。

指定が終了し、テキスト画面に戻ります。

■飾り字、文字間、囲・網、伸・縮、斜・強調、書体を指定した場合

この字から	カーソルを合わせた位置に「▶（文字モード指定マーク）」が表示され、「▶」直後の文字から行末（または、次の「▶」）まで、指定した機能を反映します。
文章全体	文章全体に、指定した機能を反映します（テキスト画面上は何も変わりません）。
この行	カーソルを合わせた行の行頭に「▶（文字モード指定マーク）」が表示され、「▶」直後の文字から行末まで、指定した機能を反映します。
この段落	カーソルを合わせた段落の行の先頭すべてに「▶（文字モード指定マーク）」が表示され、「▶」直後の文字から行末まで、指定した機能を反映します。

■外枠・表、割付け、縦・横、文字サイズを指定した場合

文章全体	文章全体に、指定した機能を反映します（テキスト画面上は何も変わりません）。
この段落	カーソルを合わせた段落に、指定した機能を反映します（テキスト画面上は何も変わりません）。

■定長、余白、地紋を指定した場合

有効範囲の画面は表示されません。

手順 4 で機能を選択した時点で、文章全体に指定した機能を反映します（テキスト画面上は何も変わりません）。

MEMO

・「▶（文字モード指定マーク）」は印刷されません。
・「▶」は削除できます。「▶」を削除すると、その前にある「▶」の指定を反映します。「▶」がない場合は、「文章全体」で指定した内容、または保存値を反映します。
・各機能のご購入時の状態（初期設定値）は「編集メニュー一覧」で確認できます。また、この設定は「各種の初期値（保存値）を設定する」で変更することもできます。

参照 「編集メニュー一覧」
参照 「各種の初期値（保存値）を設定する」

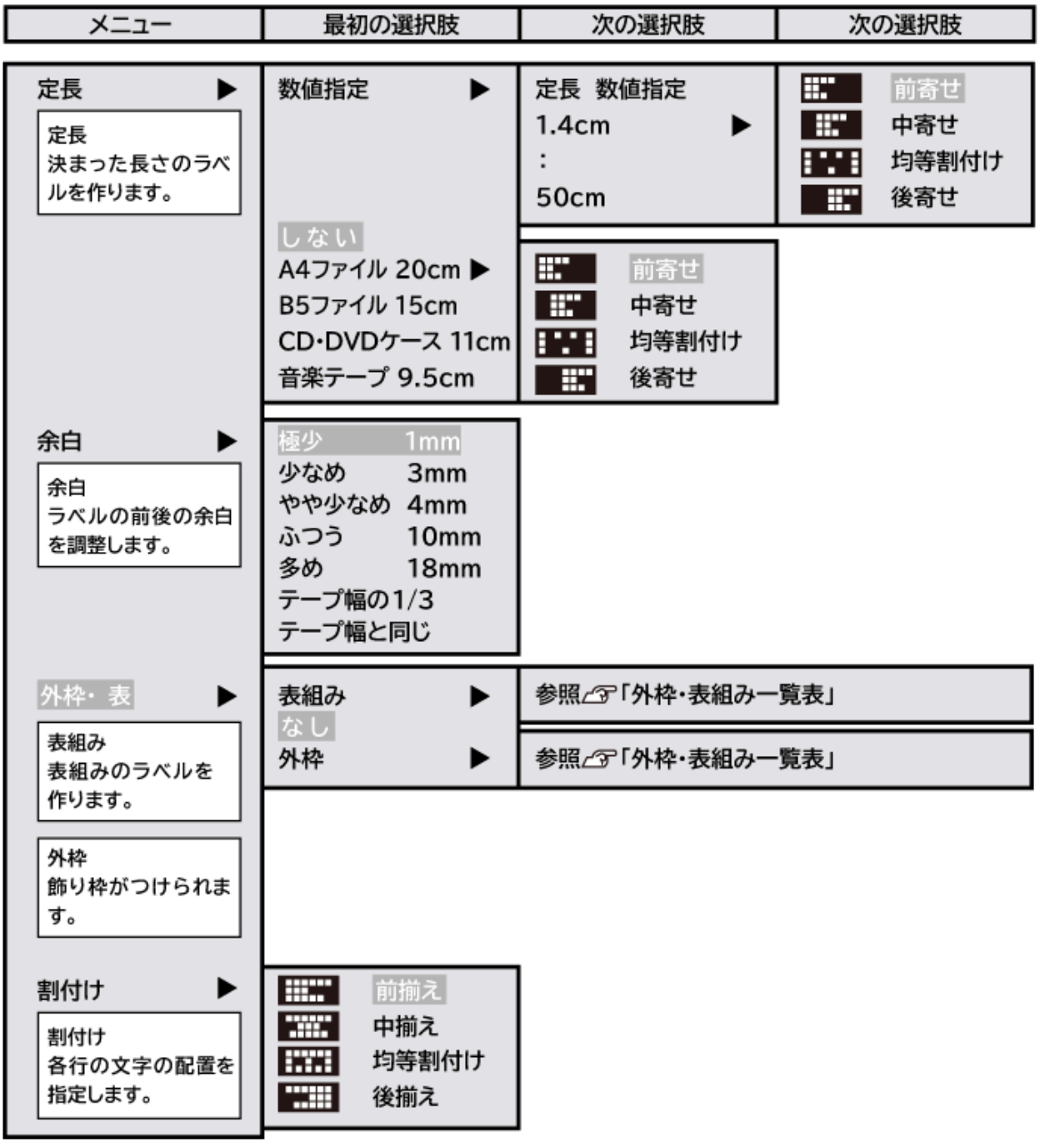
・操作を途中でやめるときは、指定の途中で 削除 取消 または各機能のボタンを押し、操作を戻します。
・一部の指定内容は、インジケーターの点灯で確認できます。

参照 「テキスト画面の見かた」

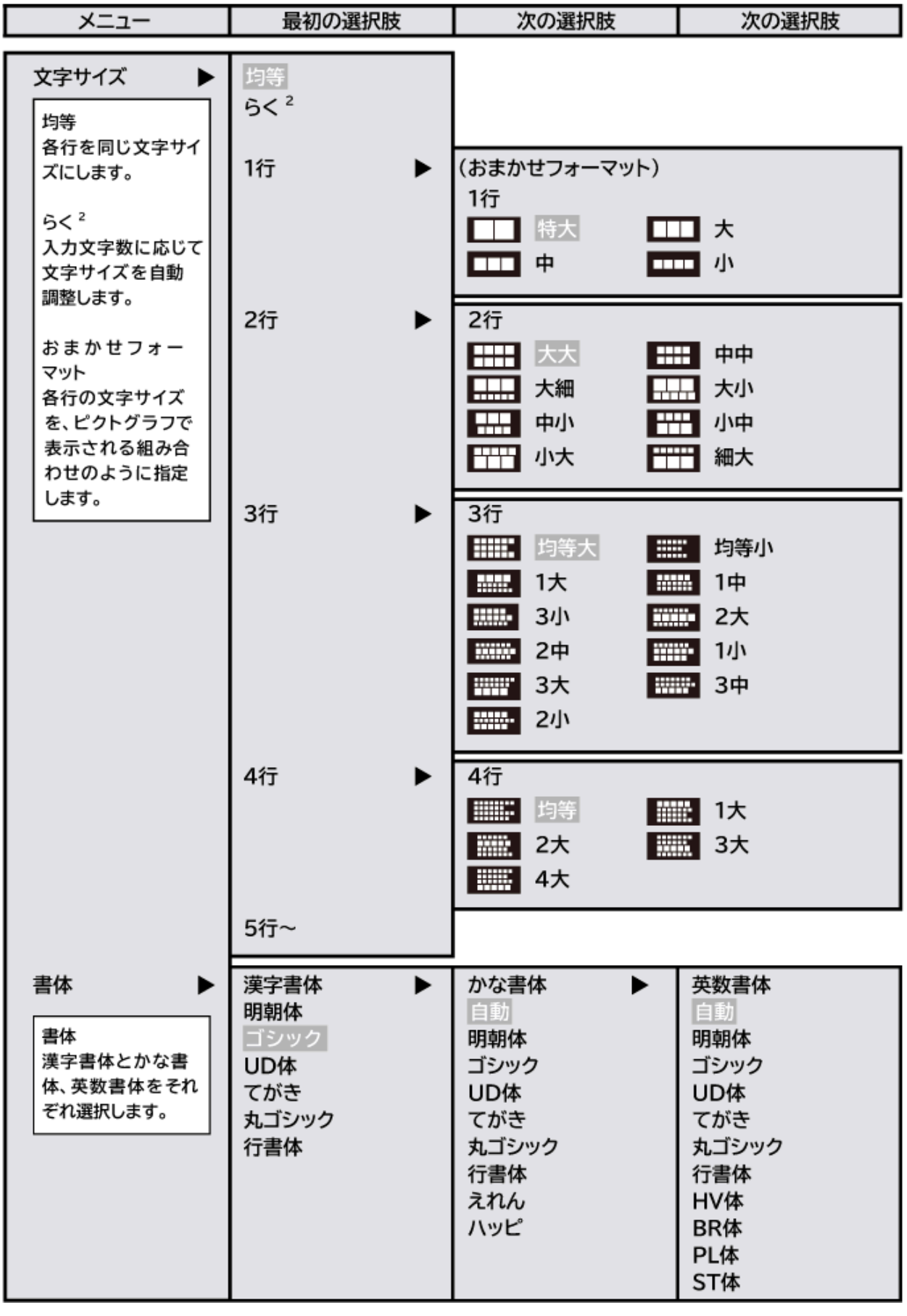
また、各機能のボタンを押して、機能の選択肢を表示させても確認できます。反転表示になっている選択肢が現在の指定内容です。
・装飾、文字サイズ、または画数の多い文字によっては、文字がツブレることがあります。
・機能を指定した場合には、プレビューなどでイメージを確認することをおすすめします。

編集メニュー一覧

は購入時の初期設定値です。

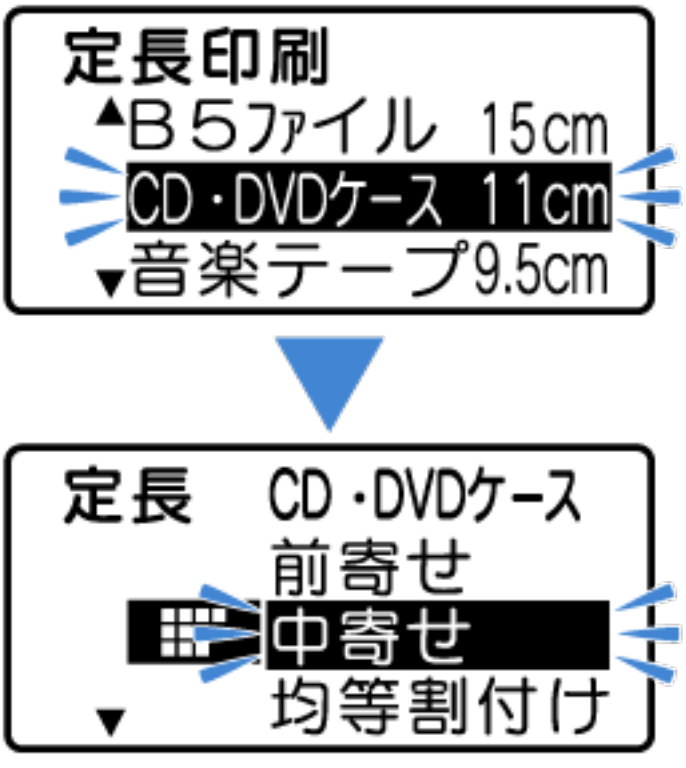


メニュー	最初の選択肢	次の選択肢
飾り字 ▶ 飾り字 文字の装飾を指定します。	A 白抜き A ふつう A 影文字 A 白抜影	
文字間 ▶ 文字間 文字間隔を調整します。プロポーショナルは英数字に有効で、「オフ」にすると英数字も全角扱いになります。	ふつう ▶ 広い 狭い 密着	プロポーショナル オン オフ
囲・網 ▶ 囲・網 下線や文字囲み、網かけなどを指定します。	A 訂正線　A 下線 A なし　A 角囲み A 丸囲み　A 網かけ A 角囲み網　A 丸囲み網	
伸・縮 ▶ 伸・縮 行中の基本文字サイズに対し、どれだけ大きく(小さく)するかを指定します。	A 細かく　A 小さく A 縮める　A ふつう A 伸ばす	
地紋 ▶ 地紋 定型地紋の入ったラベルを作ります。	なし00　海波 01 菱形 02　菱網 03 雪 04　桜 05 星 06　ｶｰﾄﾞ 07 唐草 08　切抜 09 点網 10	
斜・強調 ▶ 斜・強調 文字を斜体または強調します。	A 斜体 A 正体 A 強調 A 斜強調	
縦・横 ▶ 縦・横 文字の向きを指定します。	よこ書き　たて書き	


メニュー
最初の選択肢
次の選択肢
次の選択肢
文字サイズ ▶
均等
各行を同じ文字サイズにします。
らく²
入力文字数に応じて文字サイズを自動調整します。
おまかせフォーマット
各行の文字サイズを、ピクトグラフで表示される組み合わせのように指定します。
均等
らく²
1行 ▶
(おまかせフォーマット)
1行
特大
大
中
小
2行 ▶
2行
大大
中中
大細
大小
中小
小中
小大
細大
3行 ▶
3行
均等大
均等小
1大
1中
3小
2大
2中
1小
3大
3中
2小
4行 ▶
4行
均等
1大
2大
3大
4大
5行～
書体 ▶
書体
漢字書体とかな書体、英数書体をそれぞれ選択します。
漢字書体 ▶
明朝体
ゴシック
UD体
てがき
丸ゴシック
行書体
かな書体 ▶
自動
明朝体
ゴシック
UD体
てがき
丸ゴシック
行書体
えれん
ハッピ
英数書体
自動
明朝体
ゴシック
UD体
てがき
丸ゴシック
行書体
HV体
BR体
PL体
ST体

定長

印刷するラベルの長さを用途や数値で指定します。
長さを指定したあと、ラベル全体に対する文字の印刷位置を選びます。表示されるピクトグラフで位置のイメージを確認できます。



数値指定は、ラベルの長さを数値（1.4cm～50cm）で指定できます。



用途別の定長を選ぶとラベルの長さが自動的に指定されます。お使いになるテープは、下表の「推奨テープ幅」をおすすめします。

用途	長さ	推奨テープ幅
A4ファイル	20cm	12mm
B5ファイル	15cm	12mm
CD・DVDケース	11cm	4mm
音楽テープ	9.5cm	9mm

MEMO

・文字数が多く、指定した長さに文章がおさまらないときは、「定長オーバー」と表示され、指定した長さで印刷することができません。文字数を減らしたり、文字サイズの指定で文字の大きさを小さくしてください。
・定長で指定するラベルの長さは一応の目安です。実際のできあがり長さと完全には一致しません。

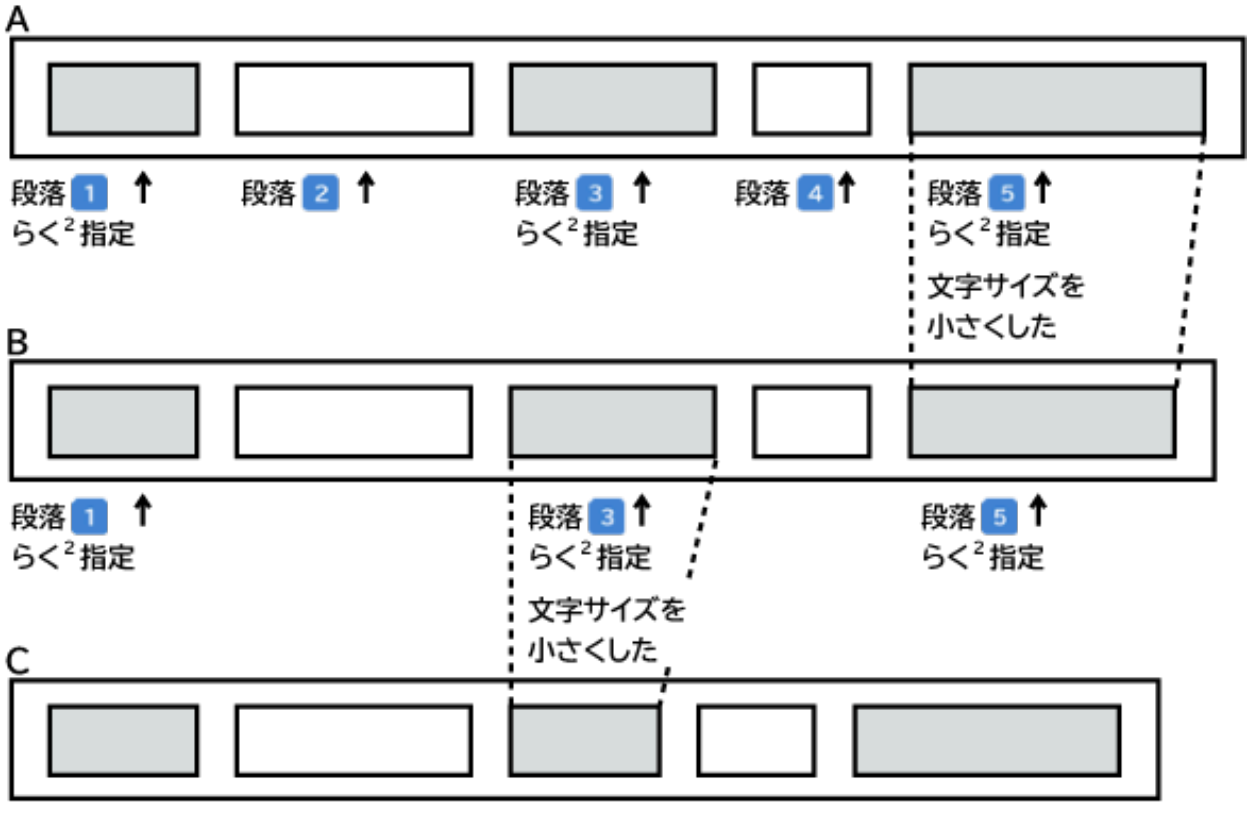
・ハーフカット無効で印刷する場合は、長さ約19mm未満のラベルは印刷できません。

参考：定長内に文字をおさめる「つめ²」機能

「文字サイズ」で「らく²」を指定すると、入力文字数に応じて自動的に文字サイズを調整します。

この「らく²」と「定長」を指定し、定長内に段落をいくつか作って文字を入力した場合、定長で指定した長さに文字がおさまらない場合があります。

そんなとき本機では、定長で指定した長さにおさまるよう文字サイズを自動的に計算し、「らく²」を指定した段落の中で、後ろから順に段落単位で文字サイズを小さくする「つめ²」機能がはたらきます。



※段落 2 、 4 が「らく²」を指定していない段落です。

1 最後の段落の文字を小さくする（図A→B）

定長に入らない場合はまず、「らく²」を指定した段落の中で最後の段落（ 5 ）の文字サイズを1段階小さいサイズに置き換えます。これで定長におさまれば自動計算は終わります。

2 最後から2番目の段落の文字を小さくする（図B→C）

これでも定長内に入らない場合は、「らく²」を指定した段落の中で最後から2番目の段落（ 3 ）の文字サイズを1段階小さくします。

定長で指定した長さにおさまるまで、上記の処理をおこないます。

この処理を繰り返しても定長で指定した長さにおさまらない場合は「入力した文章が長すぎます」と表示されます。定長を指定しなおすか、文字を少なくするなどの操作をおこなってください。

MEMO

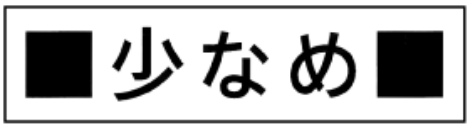
・「らく^2」を指定していない段落は「つめ^2」機能ははたらきません。
・「らく^2」以外の指定をしても実際の行数が指定と合わず結果的に「均等」になった段落については、「つめ^2」機能による処理はおこなわれません。

余白

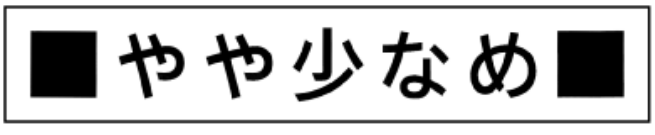
ラベルの前後の余白の長さを指定します。
・極少（余白：前後約1mm、購入時の初期設定値）



・少なめ（余白：前後約3mm）



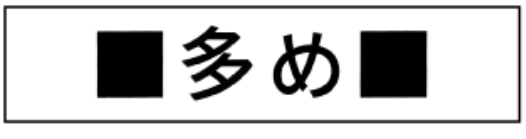
・やや少なめ（余白：前後約4mm）



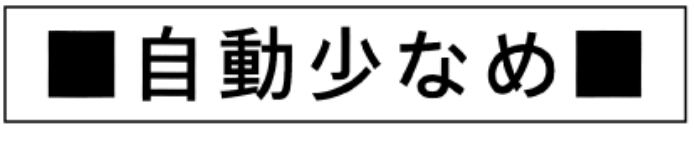
・ふつう（余白：前後約10mm）



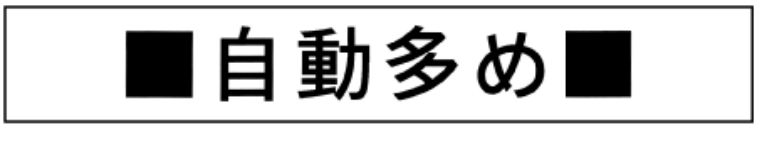
・多め（余白：前後約18mm）



・テープ幅の1/3
テープ幅に応じて余白の長さが自動的に少なめに調整されます。印刷するテープの幅の約1/3が前後の余白になります（12mm幅テープであれば余白は前後約4mm）。



・テープ幅と同じ
テープ幅に応じて余白の長さが自動的に多めに調整されます。印刷するテープの幅相当が前後の余白になります（12mm幅テープであれば余白は前後約12mm）。



MEMO

・「余白」の初期設定値は、挿入しているテープ種類によって異なります。
　・識別シールなしの場合：「極少」
　・識別シールありの場合：「やや少なめ」
　参照 ☞「テープカートリッジを使いわける」－「テープカートリッジのご注意」
・ハーフカット無効で印刷する場合は、長さ約19mm未満のラベルは印刷できません。ラベルの長さが約19mm以上になるように定長や余白を設定してください。ハーフカットが有効の場合は、長さ約14mm以上のラベルを印刷できます。

・以下の余白および特定の印刷条件を満たすときに、ハーフカット無効で印刷すると、印刷前にテープが約19mmカットされます。
・余白「極少」、「少なめ」を指定した場合（全テープ幅）
・余白「テープ幅の1/3」を指定した場合（4mm、6mm、9mm幅テープ）
・転写テープでは余白の指定が無効になります。

外枠・表

文章(段落)のまわりに外枠や表組みをつけます。

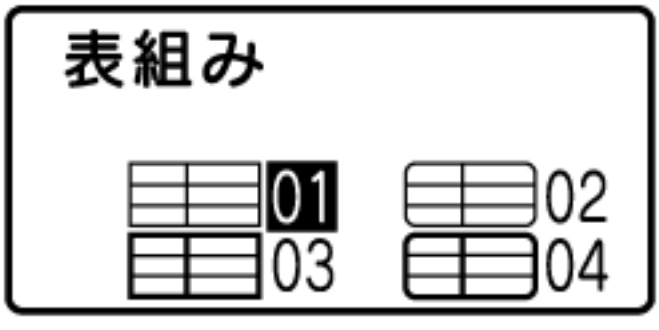
なし(購入時の初期設定値)

外枠・表組みをつけません。

表組み

文章(段落)が枠で囲まれ、行間に横罫線が引かれます。
表を前後に区切る場合は、改段落をおこなって新しい段落にも同じ表組みを指定します。
表示されるピクトグラフで表組みの種類を確認できます。

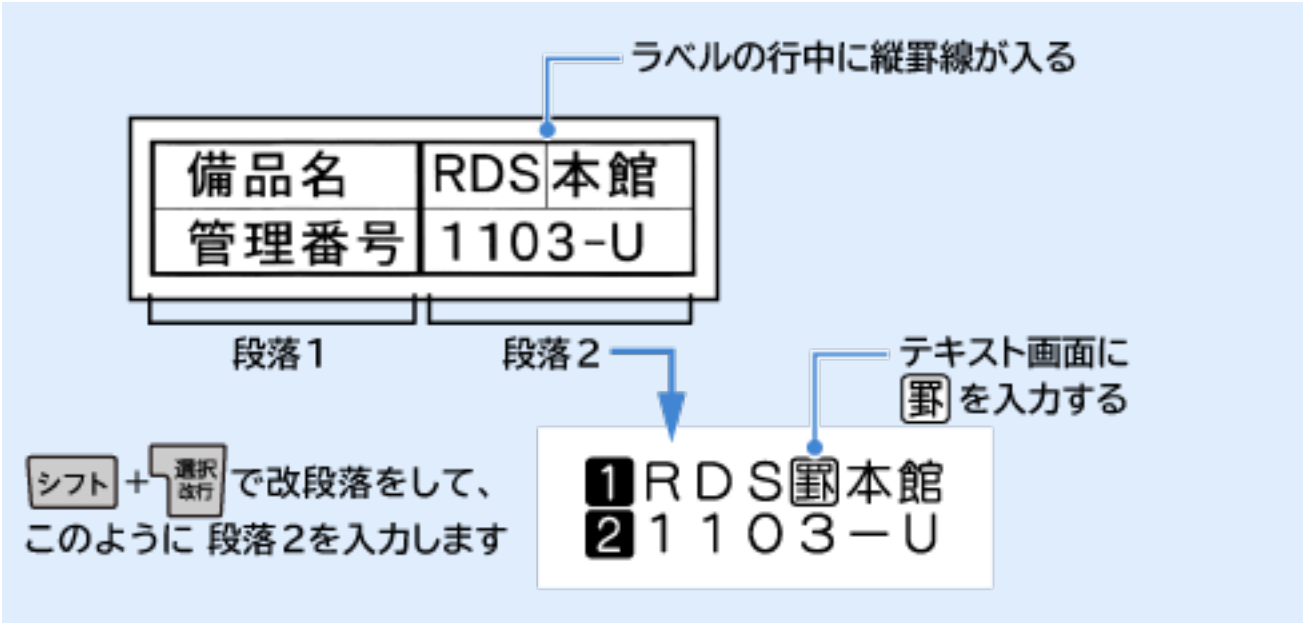
参照 ☞「段落を増やす(改段落)」



備品名	RDS
管理番号	1103-U

MEMO

・表組みのラベルの行中にさらに縦罫線を入れたいときは、記号 を押して表示される記号メニューから「編集」を選択し、その中の 罫 を入力します。



外枠

文章(段落)のまわりに外枠をつけます。
表示されるピクトグラフで外枠の種類を確認できます。
外枠の変更は 外枠 でも指定できます。
参照 「外枠ボタンを使う」



MEMO

・表組み・外枠の種類は、数字ボタンで番号を指定することもできます。
参照 「編集メニュー一覧」
・外枠のデザインは、下記ページを参照してください。
参照 「外枠・表組み一覧表」

割付け

複数行のとき、各行の「揃え」を指定します。

	前揃え（購入時の初期設定値）	行頭を揃えます。
	中揃え	各行の中心を揃えます。
	均等割付け	一番長い行の長さに揃えてほかの行を均等に割り付けます。
	後揃え	行末を揃えます。

MEMO

・文字間「密着」が指定されている場合、割付け「均等割付け」を指定しても、文字間「密着」が優先されます。

飾り字

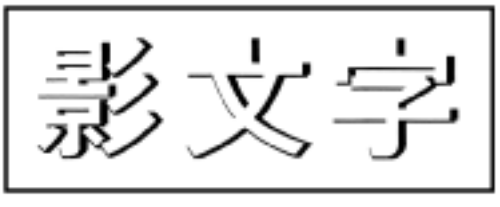
文字の装飾を選択します。
・白抜き



・ふつう（購入時の初期設定値）



・影文字



・白抜影

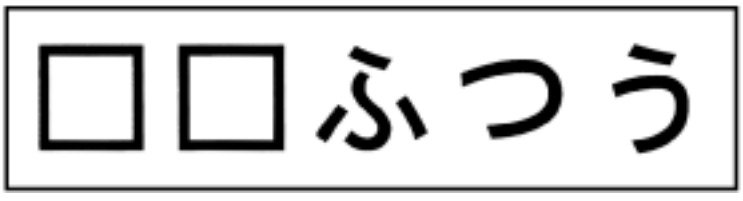


MEMO

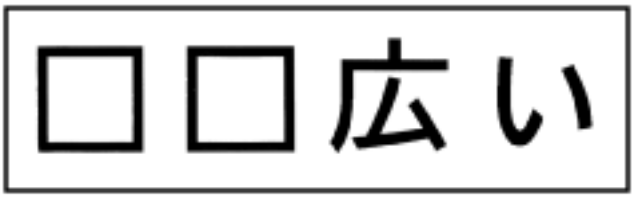
・文字サイズ、または画数の多い文字によっては、文字がツブレることがあります。

文字間

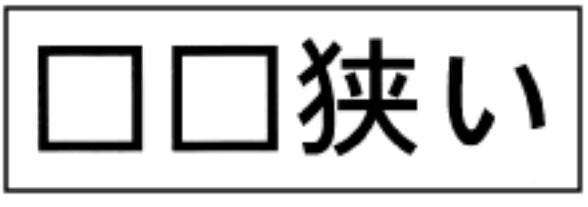
文字の間隔を選びます。
・ふつう（購入時の初期設定値）



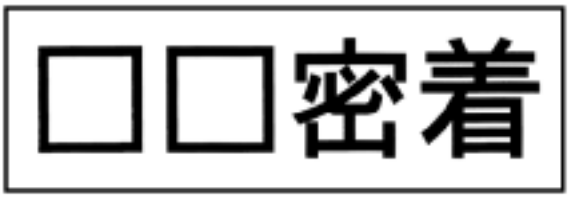
・広い



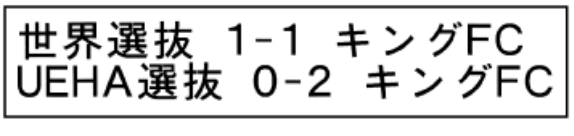
・狭い



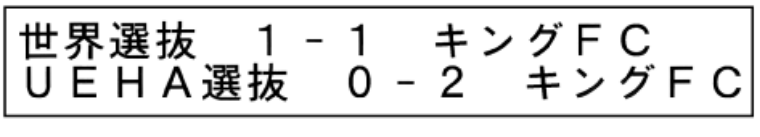
・密着



さらに文字間「プロポーショナル」の「オン/オフ」を選びます。
・プロポーショナルオン



・プロポーショナルオフ



「プロポーショナル」を「オン」にすると、英数字にプロポーショナルがかかり、文字間を美しく調整して並べます。プロポーショナルとは英数字が美しく見えるように文字間を自動的に調整する機能です。
「プロポーショナル」を「オフ」にすると、プロポーショナル機能が解除され、英数字（半角スペースを含む）をすべて全角文字として扱います。複数行で上下の文字の並びをきちんと揃えたいときは、「プロポーショナル」を「オフ」にしてください。

MEMO

文字間の指定について

・あらかじめ小さくデザインされている文字に「密着」を指定しても、密着しているように見えないことがあります。
・複数個の外字をつなげたロゴを作るときは、「密着」を指定すると完全につながったロゴが印刷できます。
参照 ☞「外字を使う」
・イラストをつなげて使用する場合は、該当箇所の文字間を「密着」に指定してください。
・大きい文字では文字間を狭く、小さい文字では文字間を広くとると、美しいラベルになります。

囲・網

文字につける囲みや下線、網などを選びます。
表示されるピクトグラフの画面で「囲・網」の種類を確認できます。



伸・縮

各行の基本文字サイズ（行の大小）は、テープ幅・入力行数・文字サイズの指定によって決まります。
伸・縮はこの基本文字サイズに対して相対的な大きさを指定します。

細かく	基本サイズより、2段階小さい文字になります。
小さく	基本サイズより、1段階小さい文字になります。
縮める	横の長さを基本サイズの約0.75倍にします。
ふつう（購入時の初期設定値）	これを選ぶと、基本文字サイズになります。
伸ばす	横の長さを基本サイズの約1.5倍にします。

MEMO

・基本文字に対して、よこ書きのラベルでは「下並び」（文字のベースライン揃え）、たて書きのラベルでは「中並び」（センター揃え）となります。
・てがき書体および英数専用書体（HV体・BR体・PL体・ST体）はベースラインがほかの漢字書体やかな書体と異なるため、「下並び」を指定しても、ほかの漢字書体やかな書体とベースラインが揃いません。
・基本文字サイズがすでに小さい場合は、「小さく」「細かく」を指定しても、文字の大きさが変わらない場合があります。
・各行の基本文字サイズは編集機能の指定で変えられます。
参照 「文字サイズ」
・装飾、文字サイズ、または画数の多い文字によっては、文字がツブレることがあります。
・細いテープを使っている場合など大きな文字サイズを使えないときに「伸ばす」を指定すると、文字の大きさが少し大きく見え、より目立つラベルになります。

地紋

ラベルの背景全体に地紋をつけます。表示されるピクトグラフで地紋の柄を確認できます。



MEMO

・地紋を指定した場合、プレビューで地紋が判読できない、文字が表示されないことがありますが、印刷に影響はありません。

斜・強調

文字の斜体、強調を選択します。

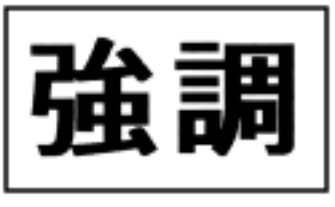
・斜体



・正体（購入時の初期設定値）



・強調



・斜強調



MEMO

・文字サイズ、または画数の多い文字によっては、文字がツブレることがあります。

縦・横

文字をたて書きにするか、よこ書きにするかを指定します。

たて書き/よこ書きの変更は 縦・横 でも指定できます。

参照 ☞「縦・横ボタンを使う」

・よこ書き（購入時の初期設定値）



・たて書き

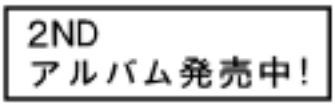


文字サイズ

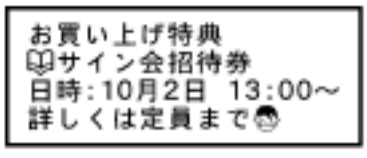
文字サイズの指定は「均等」「らく^2」「おまかせフォーマット」で指定してください。文字サイズ でも指定できます。

参照 「文字サイズボタンを使う」

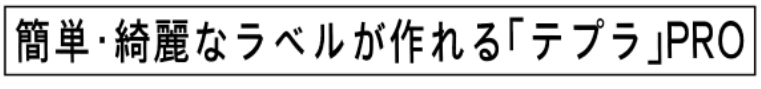
・均等（購入時の初期設定値）
各行を同じ文字サイズにします。
12mm幅テープ

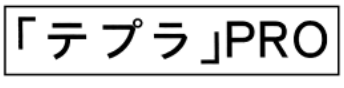


18mm幅テープ



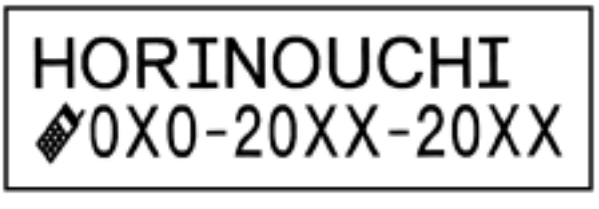
・らく^2
入力文字数に応じて、文字サイズを自動調整します（フルオート）。
1行のとき：文字数が多くなると自動的に文字サイズを小さくします。





2行以上のとき：各行の長さがバランスよくなるように文字サイズを自動調整します。



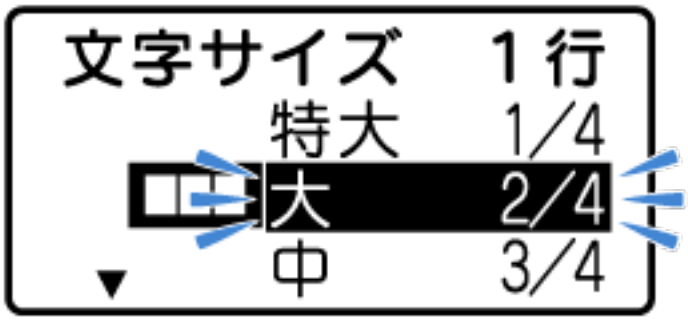


テープ幅や行数、文字数の割合に応じて、各行のできあがりの長さができるだけ揃うようにします。また、文字数が多くなってもラベル全体が長くなりすぎないように、文字サイズを自動調整します。

・おまかせフォーマット
各行の文字サイズ（行の大小）を、あらかじめ用意された組み合わせの中から選びます（セミオート）。
「おまかせフォーマット（1行～8行）」を参照してください。

おまかせフォーマット（1行～8行）

選択肢から文字サイズ（行の大小）を選びます。表示されるピクトグラフで各行の文字のバランスなど、レイアウトを確認できます。



おまかせフォーマット 1行の文字サイズ

特大・大・中・小と選んだ場合、テープ幅により次のような文字の大きさで印刷されます。

印刷サンプル	美	美	美	美	美	美	美
文字サイズ[pt] / テープ幅	48	38	26	19	13	10	6
24mm	特大	大	中	小	–	–	–
18mm	–	特大	大	中	小	–	–
12mm	–	–	特大	大	中	小	–
9mm	–	–	–	特大	大	中	小
6mm	–	–	–	–	特大	大	中、小
4mm	–	–	–	–	–	–	特大、大、中、小

注意

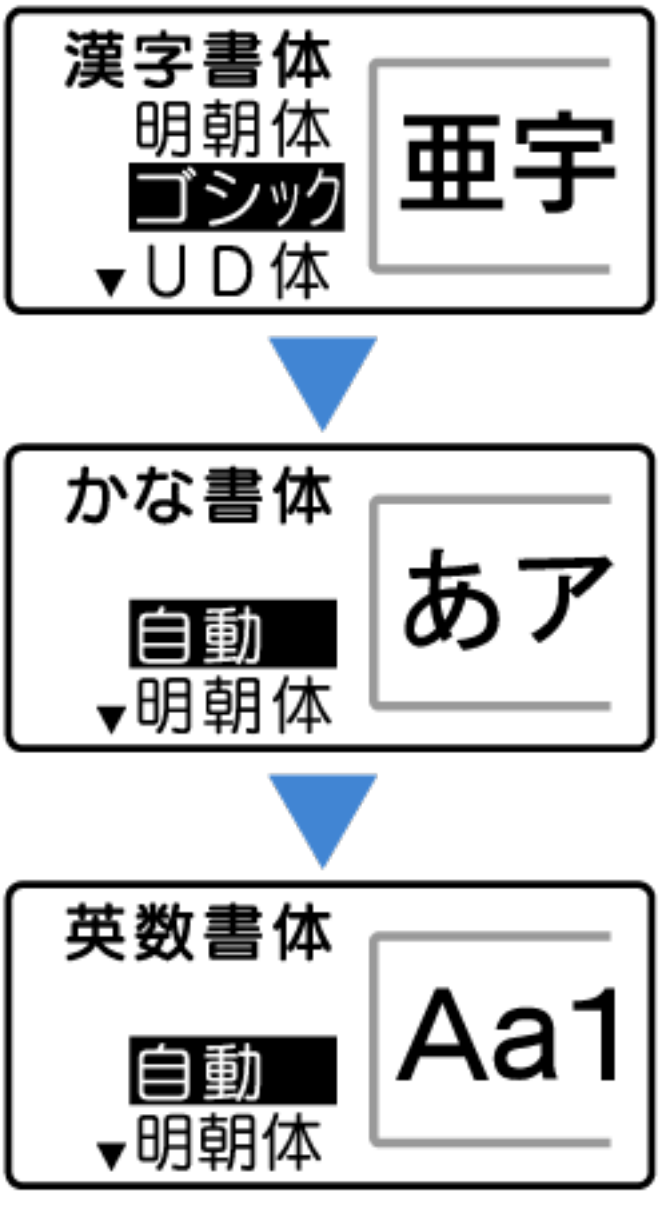
・テープに印刷できる文字の大きさに制限があるため、テープ幅や印刷する行数によっては、おまかせフォーマットの一部が機能しないことがあります。

MEMO

・おまかせフォーマットは、ピクトグラフで表現しています。
・各行の文字サイズはテープ幅によって異なり、文字サイズインジケーターで確認できます。
・指定した行数と実際に入力された行数が異なる場合は、「均等」で印刷されます。

書体

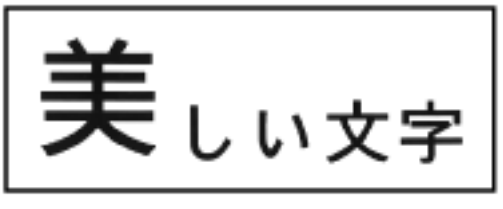
文字の書体を選びます。かな書体と英数書体で「自動」を選ぶと、漢字書体と同じ書体が選択されます。



・明朝体



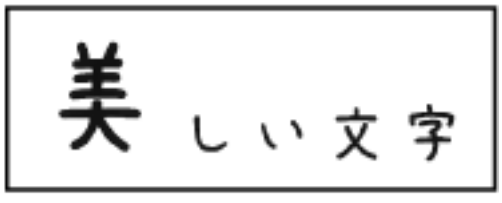
・ゴシック（購入時の初期設定値）



・UD体



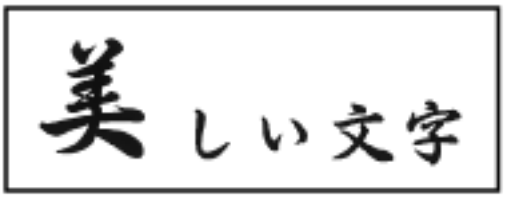
・てがき



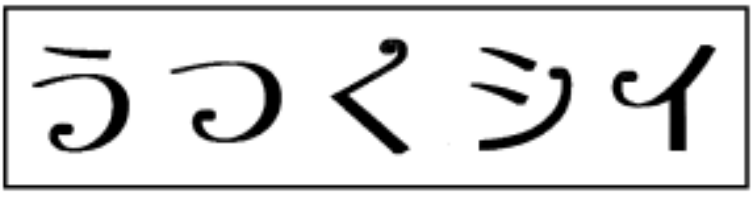
・丸ゴシック



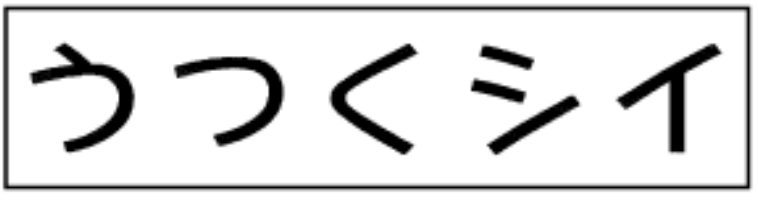
・行書体



・えれん



・ハッピ



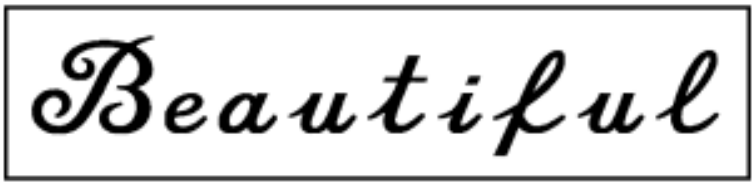
・HV体



・BR体



・PL体



・ST体



2026年11月 第1版